

令和8年度 国語科「総合国語α」 シラバス

単位数	2	学科・学年・学級	普通科・2学年・A～G
教科書	1 「精選 論理国語」(数研出版) 2 「文学国語」(数研出版)	副教材等	1 「新訂 総合国語便覧」(第一学習社) 2 「入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500」(いいずな書店) 3 「新演習 現代文アチーブ3」(桐原書店)

1 学習の到達目標

<p>○「現代の国語」及び「言語文化」により育成された資質・能力を基盤とし、主として「思考力・判断力・表現力等」の創造的・論理的思考の側面の力を育成する科目として、実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする資質・能力を育成する。</p> <p>【論理国語】</p> <p>●「現代の国語」及び「言語文化」により育成された資質・能力を基盤とし、主として「思考力、判断力、表現力等」の感性・情緒の側面の力を育成する科目として、深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力を育成する。【文学国語】</p>
--

2 学習の計画

※学習項目の○は論理国語、●は文学国語を表す。

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。[B(1)エ]	具体と抽象	○手の変幻	・文章中の抽象的な表現の内容を踏まえ、筆者の「芸術」についての考えに対する自分の考えを述べる。 ・逆説的な表現の内容を理解する。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・漢字テスト ・課題 ・定期考査
5	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。[B(1)ア]	文学の扉	●山月記 中間考査	・本文全体から、虎になる前の李徴の人柄を箇条書きで整理し、文章でまとめる。 ・李徴自身は、自分が虎になったのはなぜだと考えているかをまとめる。 ・作者がこの作品を人間が虎になるという設定にしたのはなぜかを考える。	
6	「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。[B(1)エ]	近代と現代の視点	○科学・技術の歴史の中での社会	・科学・技術の歴史を読み取り、「『道具』としての意味合いを持った科学」の内容を的確にとらえる。 ・科学と社会との関わり方について自分の考えを深める。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・漢字テスト ・課題 ・定期考査
7	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。[B(1)カ]	昭和初期の小説	●山椒魚	・山椒魚の心情変化をまとめる。 ・山椒魚と蛙の関係はどのように変化していったかを、それぞれの心情に着目しながらまとめる。 ・この小説を寓意小説と見た場合、人間におけるどのような状況を表しているかを考える。 ・山椒魚の考え方や行動について、どのような感想を持ったかを話し合う。	
8			期末考査		
9					

10	「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。〔B(1)カ〕	思考の枠組み	○偶然とは何か	・人間の「必然」と「偶然」についての歴史的なとらえかたについて読みとめる。 ・「偶然」の持つ価値について考えを深める。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・漢字テスト ・課題 ・定期考査
11	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕	大正の小説	●こころ	・「私 (=先生)」のKに対する心情を整理する。 ・Kが用いた「覚悟」という言葉を「私」はどのように解釈しているかを時間の経過に従ってまとめる。 ・「覚悟」という言葉をKはどのような意味で用いたのかを考える。	
12			中間考査		
1	「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。〔B(1)イ〕	大正の小説	●こころ	・Kの自殺を発見したときの「私」の心情と行動はどのようなものだったかをまとめる。 ・Kの手紙の内容をまとめ、Kの自殺の理由を考える。 ・作品の主題を話し合う。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・漢字テスト ・課題 ・定期考査
2	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)カ〕	文学評論	●文学のふるさと	・本文にあげられた三つの物語について、筆者はどのような点に着目しているかをそれぞれまとめる。 ・筆者は「文学のふるさと」をどのようなものとしてとらえ、文学をどう扱っていかねばならないと考えているかをまとめる。	
3	「書くこと」において、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が確実に伝わる文章になるよう工夫している。〔A(1)オ〕	考えの表出	○日本語は非論理的か	・筆者が言葉の使い方について「論理的」「非論理的」と表現する内容を理解する。 ・指定の段落構成に従い、筆者が提示する問題点を踏まえつつ、具体例や自分の意見を論述する。	
			期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。【論理国語】 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。【文学国語】
思考・判断・表現	・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。【論理国語】 ・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主体的に学習に取り組む態度	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。【論理国語・文学国語】

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

- (1) 「総合国語α」とは、「論理国語」「文学国語」という2つの教科書の学習事項を扱う、本校独自の科目です。
- (2) 年間を通して10回漢字テストを実施します。

令和8年度 国語科「古典探究」 シラバス

単位数	3	学科・学年・学級	普通科・2学年・A～G
教科書	「古典探究 古文編」 「古典探究 漢文編」 (数研出版)	副教材等	『体系古典文法 九訂版』・『体系漢文 三訂版』 (数研出版) 『体系漢文準拠ノート』 (数研出版) 『読んで見て聞いて覚える 重要古文単語315 四訂版』 (桐原書店) 『3ステップオリジナル問題集 錬成 古典』 (尚文出版) 『新訂総合国語便覧』 (第一学習社)

1 学習の到達目標

生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けることができるようにする。
また、古典を通した先人のものの見方に触れ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の計画

※学習項目の◇は古文、◆は漢文を表す。

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。[A(1)ウ]	説話	◇大江山 (十訓抄)	・「大江山……」の歌で、小式部内侍が伝えようとしたことを説明する。 ・「返歌にも及ばず、袖を引き放ちて、逃げられけり」とは、誰がなぜそのようなにしたのか説明する。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・漢字テスト ・課題
5	「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。[A(1)ウ] 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。[A(1)イ]	故事 歌物語	◆『韓非子』「買履忘度」 ◆『歴代名画記』「画竜点睛」 ◇鳥飼の院 (大和物語)	・『韓非子』の文章を読み、その特徴である現実主義的な考え方に触れさせる。 ・成語「画竜点睛」の出典となった故事に触れさせる。 ・「あさみどり……」の歌について現代語訳し、この歌が「鳥飼」という題の歌であると言えるのはどうしてか、説明する。 ・「二間ばかり積みてぞおきたりける」とは、何がどのような様子であるというのか 説明する。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて、体系的にまとめる。	
6	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ]	資料編	◆「語順」「再読文字」「否定」 中間考査		
7	「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 [A(1)オ]	物語	◇『源氏物語』 「光源氏誕生」	・帝が「桐壺の更衣」を寵愛することに対し、まわりの人々はどう思ったか、説明する。 ・「一の皇子」と「玉の男皇子」とに対する帝の接し方の違いを説明する。 ・帝・桐壺の更衣・弘徽殿の女御の人物像について考える。	
8	「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 [A(1)オ]	思想	◆『孟子』「性善」 ◆『荀子』「性悪」 ◆『老子』「無用之用」	・儒家 (孔子・孟子・荀子) と道家 (老子・荘子) では、それぞれ人間が生きていくうえでどのようなことに重きを置いているか、考える。	
9	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [(2)イ]	資料編	◆句法 「使役」「受身」「疑問」 期末考査	・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて、体系的にまとめる。	

10	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。[A(1)イ]	物語	◇『源氏物語』 「小柴垣のもと」	・「生ひ立たむ……」と「初草の……」の歌について、「若草」「露」「初草」が何をたどっているか、それぞれの歌は何を訴えようとしているか、説明する。 ・光源氏は「女子」のどこに興味をひかれているのか、説明する。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・漢字テスト ・課題 ・定期考査
11	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。[A(1)イ] 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。[(2)イ]	史伝 句法	◆『史記』 「鴻門之会」 ～剣舞～ ～頭髮上指す～ ◆句法 「反語」「詠嘆」「仮定」	・項羽が范増の指示に応じなかった理由を考える。 ・樊噲の演説を聞いてそれに答えなかった項羽の心情を考える。 ・劉邦が脱出した後の項羽と范増の心情を、劉邦からの献上品に対するそれぞれの態度を踏まえてまとめる。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて、体系的にまとめる。	
12			中間考査		
	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。[(2)イ]	和歌・歌謡・俳諧	◇『古今和歌集』「仮名序」	・作者は和歌をどのようなものととらえているか、その本質と効用に分けて整理する。 ・作者は六歌仙の歌をそれぞれどのようにとらえて評価しているか、整理し、考える。	
1	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。[A(1)イ]	史伝	◆『史記』 「四面楚歌」	・項羽は敗戦の原因をどのように考えているか、詩の一句目と二句目の表現を踏まえて考える。	
2	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。[A(1)イ]	歴史物語	◇『大鏡』 「雲林院の菩提講」 「三船の才」	・本文を「出来事」「事後の公任の感想」「語り手の感想」の部分に分ける。 ・「かばかりの詩……まさりなまし」という言葉が発せられた理由について説明す	
3	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。[(2)イ]	資料編	◆句法 「比較」「比況」「選択」 期末考査	・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて、体系的にまとめる。	

3 評価の観点

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
思考・判断・表現	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝える力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

古典は、日本古来の言語文化に触れながら、それらを形作ってきた人間存在の本質を学ぶ科目です。先人たちの考え方を理解し、そのうえで現代との共通項を見出したり、違いを明らかにしたりすることは、皆さん自身の人生を豊かなものにしていくことでしょう。授業を通して、教科書や副教材を自分で読み込んでいく力もつけていきます。単に定められた範囲を暗記するのではなく、学習内容や学習方法を広く展開し、応用していく姿勢を身につけてほしいと思います。また、予習指示がある場合は、必ず済ませて授業に臨みましょう。

※句法、文学史、古文常識は定期試験に出題します。

単位数	2単位	学科・学年・学級	2学年普通科
教科書	詳述公共 新訂版 (実教出版)	副教材等	クローズアップ公共 (第一学習社)

1 学習の到達目標

ますます平和を希求する気運が高まる中で、未来を担う生徒たちに平和と幸福の知恵を求める心を養う。授業では「答えを教えることから、問いを探索すること」を主眼とし、主体的・対話的で深い学びを目指していく。また、社会的事象を多角的な視点から考察し、現代の行き詰まりをみせる混沌とした社会の問題点を追及したり、様々な議論を重ねることにより、国際社会に主体的に生きる確かな人間観を養い、あらゆる差別を超えた世界市民として平和を構築できる力ある人材を育成する。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	倫理 第1章 社会を作る私たち	1. 様々な人間観と青年期の課題	・古今東西の人間観に基づき、あらためて人間とは何かを考察する。また、青年期の特徴を理解すると共にライフサイクルの中で、青年期がいかに重要な時期かを自覚する。	・古今東西の人間観を通して、自分なりの人間観を構築できたか。ライフサイクルの中で、青年期の特徴を整理し、青年期の重要性に気付くことができたか。
	5	第2章 人間としてよく生きる	1. ギリシア思想	・ギリシア思想の基本的な概要を学習すると共に、ソクラテスやプラトンの思想から様々な世界観があることを知り、自分独自で世界を考察していく力を身に付ける。 ・哲学者の代名詞であるソクラテスの教えと生き方について学習する。	・ギリシア思想の流れと特徴を整理し、自分なりに考察・意見を述べるができるか。 ・「善く生きる」とは何かを理解し、また自分にとっての善とは何かを思索、主張できるか。
	6		2. 世界宗教	・西洋思想の母体の一つであるヘブライズムの概要について学習し、自身の宗教観を構築する。 ・古代インド思想バラモン教について学習し、東洋の源流思想の特徴について知る。	・イデアと現象の関係を理解すると共に自身の世界観を構築できているか。 ・イエスはユダヤ教の何を継承し何を否定したのかを理解しているか。
	7			・仏教の開祖である釈迦の思想と生涯について学習する。また、釈迦の思想をもとに自身の人生観や生命観、生死の問題についても思索していく。	・カースト制度やウパニシャッド哲学の基本性格を理解できているか。 ・ブッダの教えの内容を整理すると共に、仏教の根本精神を理解できているか。また、生命や生死の問題について関心をもち自身の考えを少しでも深めたか。
	9		3. 西洋思想	・西洋の様々な思想を紹介し、基本的事項を身につける。知識のための知識ではなく、より実践的な生活に生かせる知識を身につけ、西洋思想の観点から世界を考察していく。 ・実存主義において、「存在するとは何か？」存在に対する認識の通路を見出す。	・ニーチェやベーコン、デカルトなどの世界観を考察して、それらに触れることにより新たな発見、独自の世界観を構築できるか。 ・ハイデガー、サルトル、ヤスパースの考え方を理解しているか。
			前期期末 答案返却		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	政治・経済 第1章 日本国憲法の基本的性格	1. 日本憲法史	・天皇主権を掲げる大日本帝国憲法と戦後の外圧の下で成立した日本国憲法を徹底比較し、特徴をおさえる。	・日本国憲法が成立するに至った経緯について理解するとともに、自身の憲法観について述べることができるか。
			2. 社会権・新しい人権	・自由権との違いを理解するとともに新しい人権の種類と根拠条文などもおさえる。	・時代の変遷とともに必要とされる様々な権利があることを理解し、権利への見識を深めることができたか。
	11	第2章 日本の政治機構と政治参加	1. 政党政治	・二大政党制と多党制の長所や短所をおさえ、55年体制の成立と崩壊、それ以降の新たな動向を知る。	・日本の政治制度に対して見識を深め、新たな問題提起ができるか。
	12		2. 選挙制度	・衆議院と参議院を比較し、近年の選挙制度改革にも注目するとともに日本の選挙の課題について考察する。	・選挙の仕組みについて理解し、自分なりの問題意識を持ち、それを述べることができるか。
	1	第3章 現代の経済社会	1. 経済社会の形成と変容	・財、サービスにはどのようなものがあるか、経済社会の形成と変容について理解する。	・財やサービス、分配や消費など経済の基本的な仕組みについて理解できるか。
	2 3		2. 日本経済の歩み	・復興期～高度成長期～安定成長期～バブル崩壊後の長期にわたる不況期の流れについて整理する。	・我が国の人口は今後減少していくことが見込まれ、経済社会に様々な影響を与えることが懸念されているが、そうした社会の中でどのように生き抜いていくべきなのか。自分なりの考察ができていますか。
			後期期末考査 答案返却		

3 評価の観点

知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探求するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解しているとともに、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、整理してまとめる技能を身に付けようとしている。
思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明しようとするとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し、公正に判断しようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養おうとしている。自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとしている。

4 評価の方法

上記3に示した3つの観点から、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

様々な人間関係、社会不安など時代は混迷し、行き詰まりを見せています。そうした社会の中で、確かな人生を歩む羅針盤と一緒に探求していきたいと思っております。一年間よろしくお願ひします。

単位数	3	学科・学年・学級	普通科 2年次 A, B, C組
教科書	詳説 世界史 (山川出版社)	副教材等	グローバルワイド最新世界史図表 (第一学習社)

1 学習の到達目標

<p>① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等		
前期	4	第1章 古代文明の出現	1 文明の誕生	○農耕のはじまりによって変化した生活様式について多面的・多角的に考察し、表現する。	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査		
			2 古代オリエント文明とその周辺	○メソポタミア文明、エジプト文明、エーゲ文明がのちの社会に与えた影響を理解する。			
			3 南アジアの古代文明	○インダス文明やインドへのアーリヤ人の来住がのちの社会に与えた影響を理解する。			
			4 中国の古代文明	○黄河文明や、殷や周の王朝がのちの社会に与えた影響を理解する。			
			5 南北アメリカ文明	○マヤ文明やインカ帝国が形成した文明の特徴を中南米の地理的条件をもとに理解する。			
	5	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	1 中央ユーラシア 草原とオアシスの世界	○中央ユーラシアの地理的条件をもとに遊牧国家の特徴を、多面的・多角的に考察し、表現する。			
			2 秦・漢帝国	○秦漢帝国や匈奴帝国の成立過程とその性格について理解する。			
			3 中国の動乱と変容	○中国と周辺地域の交流はどのようにして広がったのかについて理解する。			
			4 東アジア文化圏の形成	○東アジアの歴史的特質について自らの学習を振り返り、学びを深める。			
			中間考査				
	6	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	1 仏教の成立と南アジアの統一国家	○南アジアの諸宗教はどのような特徴をもっているかなどについて理解する。		○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査	
			2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着	○南アジアの歴史的特質について、自らの学習を振り返り、学びを深める。			
3 東南アジア世界の形成と展開			○東南アジア地域において、国家がどのように形成されたのかについて理解する。				
7			第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	1 イラン諸国家の興亡とイラン文明	○アッシリア帝国とアケメネス朝ペルシアの共通点と相違点を理解する。		
2 ギリシア人の都市国家	○アテネの民主政と現代の民主政にはどのようなちがいがあのかを理解する。						
9		3 ローマの地中海支配	○ローマがなぜ共和政から帝政に移行したのかについて、諸資料から読み取り、理解する。				
		4 キリスト教の成立と発展	○キリスト教とはどのような特徴をもった宗教なのか、国家との結びつきに注目して理解する。				
		期末考査					

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成	○イスラームとはどのような特徴をもった宗教なのか、どのように広まったのかを理解する。 ○ヨーロッパ世界が周辺民族との接触の中で形成されていく過程を理解する。	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
	11	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向	○カリフと地方政権の関係に注目して、イスラーム世界が分裂していく過程を理解する。 ○トルコ人の進出による、イスラーム世界が変化していく過程を理解する。	
	12	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	1 西ヨーロッパの封建社会とその展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 中間考査	○西ヨーロッパの封建社会はどのような背景で成立したのかを理解する。 ○東ヨーロッパの民族・国家・宗教の結びつきについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○11世紀以降、西ヨーロッパの農業、商業、都市はどのように変容したのかについて理解する。	
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	1 アジア諸地域の自立化と宋 2 モンゴルの大帝国	○東アジア地域での勢力交代の過程を理解する。 ○遊牧国家であるモンゴルが形成した王朝の仕組みを、他の王朝と比較して、考察し、表現する。	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
	2	第9章 大交易・大交流の時代	1 アジア交易世界の交流 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容	○明・清を中心とする東アジア世界の結びつきを理解する。 ○東アジアにおける交易活動にヨーロッパが参入した背景を、多面的・多角的に考察し、表現する。	
	3	第10章 近世ヨーロッパ世界の動向	1 ルネサンス 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 期末考査	○ルネサンスの社会的背景、後世への影響を、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○宗教改革の社会的背景を理解し、諸資料をもとに改革者たちの目的を多面的・多角的に考察し、表現する。 ○主権国家体制の成立と戦争の関係を、多面的・多角的に考察し、表現する。	

3 評価の観点

知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解している。 諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。
思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価の観点に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

“歴史の舞台に登場する人物達はその時何を思い、どう行動したか。歴史とは、それらの人物を通して自身を顧みる鏡である。”
とある学者の発言の引用です。歴史の学習を、ただ単に過去の出来事を覚えるだけ、と捕らえるのではなく、過去からの時間のつながりの中での「いま」を生きる我々に与えられた課題を見出し、追究しようとする主体的・積極的な姿勢で取り組んで欲しいと思います。

令和8年度 地理歴史科 「日本史探究」シラバス

単位数	3	学科・学年・学級	普通科 2年次 B C D F G組
教科書	日本史探究 (実教出版)	副教材等	図説日本史通覧 (帝国書院)

1 学習の到達目標

①我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
 ②我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
 ③我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
前期	4	第1部 原始・古代の日本と東アジア	1 日本列島最古の文化	・人類の出現と旧石器時代の日本列島について理解する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査 (全4回)	
			2 縄文時代の社会と文化	・縄文文化の特色や日本人の起源について理解する。		
			3 弥生時代の社会と文化	・弥生文化の特色と小国家の形成について理解する。		
		第2章 ヤマト政権の成立と古墳文化	1 小国の分立と邪馬台国	・文字資料を基に、弥生時代の日本列島の様子を理解する。		
			2 古墳の出現とヤマト政権の成立	・古墳の形状・規模やその分布域を基に、ヤマト政権の成立過程について理解する。		
			3 ヤマト政権の展開と統治の進展	・ヤマト政権の支配体制や氏姓制度について理解する。		
	5	第3章 律令国家の形成	4 古墳時代の生活と文化	・古墳時代の生活と文化を理解する。		
			中間考査			
			1 古代国家の形成	・7世紀の東アジアの動向と国内の政治との関係を理解する。		
		6	第4章 古代の国家・社会の変容	2 飛鳥文化・白鳳文化		・飛鳥時代の仏教文化の特徴について理解する。
				3 律令制度		・律令制度における土地・人民把握について理解する。
				4 奈良時代の政治		・奈良時代の諸政策とその影響について理解する。
後期	7	第2章 中世の国家・社会の展開	5 天平文化	・天平文化の特徴について理解する。		
			1 律令体制再編期の政治と社会	・平安時代前期の政治や文化の特徴について理解する。		
			2 摂関政治の成立	・摂関政治期を、藤原北家や藤原北家以外の貴族の視点から理解する。		
		8	第3章 中世の国家・社会の変容	3 国風文化	・国風文化の時代に、仏教が社会に与えた影響や、貴族の日記が書き残された理由について考える。	
				中間考査		
				1 鎌倉幕府の成立と朝廷	・北条氏の権力強化の画期について理解する。	
	9	第3部 近世の日本と世界	2 中世に生きる人々	・鎌倉時代の諸産業の発達について理解する。		
			3 蒙古襲来と幕府の衰退	・ユーラシアの動向もふまえて、蒙古襲来について理解する。		
			4 鎌倉文化	・顕密仏教を軸にして、鎌倉時代の仏教や文化の展開について考える。		
		第1章 東アジアの世界の変容と天下統一	1 南北朝の動乱	・地域の政治・経済の基盤をめぐる対立と守護大名の領国経営について考える。		
			2 室町幕府の政治と外交	・東アジアにおける交流や交易が国内にどのような変化をもたらしたのか理解する。		
			3 室町社会の展開と応仁の乱	・応仁の乱によって、畿内と地方の関係はどのように変化したのか理解する。		
10	第1章 東アジアの世界の変容と天下統一	4 室町文化	・室町文化の特徴と、政治や経済の動向との関係について理解する。			
		5 戦国大名の領国経営	・戦国大名の領国経営と畿内との政治的・経済的な関係について考える。			
		1 織豊政権	・織豊政権の政治・経済政策による都市や村落の支配の変化を考える。			
11	第1章 東アジアの世界の変容と天下統一	2 天下統一の完成	・家康の対外政策がアジア各地やヨーロッパ諸国との交流に与えた影響について理解する。			
		3 近世成り立の文化	・アジア各地やヨーロッパ諸国との交流が文化に与えた影響について理解する。			
		期末考査				

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2章 幕藩体制の成立と展開	1. 幕藩体制の成立 2. 貿易の統制と対外関係 3. 近世社会のしくみ 4. 幕府政治の展開 5. 経済の発展 6. 元禄文化と学芸の発展	・法や制度による支配秩序の形成と幕藩体制の確立について考える。 ・幕府の対外政策の推移とアジアの国際情勢の変化について考える。 ・村落や都市の支配の変化について考える。 ・統治政策の推移と経済政策の展開が人々の生活や社会に与えた影響について考える。 ・交通・流通の発達、農業・手工業・商業などの発達が相互にどのように関連しているのか考える。 ・元禄文化が都市の発達や担い手となった新興町人や農民たちとの関連性について考える。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査 (全4回)
	11	第3章 近世の国家・社会の変容	1. 幕藩体制の動揺と幕政の改革 2. 欧米列強の接近と天保の改革 3. 近世文化の成熟と変容	・飢饉や一揆の発生と幕府の政策との関係性について考える。 ・外国船の接近による社会への影響や幕府の対応を考える。 ・江戸中・後期の文化が近代の転換や現代の社会に与えた影響について考える。	
	12	第4部 近現代の地域・日本と世界 第1章 開国から倒幕へ 第2章 明治維新	1. 明治維新 2. 文明開化	・対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近代へ時代の転換を理解する。 ・明治政府の制度改革とその影響を考える。 ・明治政府が行った宗教政策の過程を考える。	
	12	第3章 近代国家の形成	1. 立憲国家への道 中間考査	・自由民権運動の展開を考える。	
	1	第4章 両大戦間の日本	2. 議会政治の展開と日清・日露戦争 3. 産業革命と社会の変化 1. 第一次世界大戦 2. 政党政治の展開 3. 市民文化の展開	・日清戦争の原因・経過・結果とその後の国内の変化を考える。 ・財閥や寄生地主が生まれる経緯を考える。 ・第一次世界大戦の展開と日本の関わり方を考える。 ・第一次世界大戦後の国際秩序の構築の過程と目的を考える。 ・都市部でのさまざまな変化を考える。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査 (全4回)
	2	第5章 十五年戦争と日本	1. 満洲事変 2. 日中戦争 3. アジア・太平洋戦争 (太平洋戦争)	・満洲事変の展開と、それにたいする国際社会の見方について考える。 ・二・二六事件の展開とその後の影響について考える。 ・アジア・太平洋戦争の経緯を考える。	
	3	第6章 戦後日本の形成	1. 占領と民主改革 2. 独立と日米安保体制の形成 3. 高度経済成長下の日本	・民主化政策の内容を考える。 ・冷戦がアジアに及ぼした影響について考える。 ・高度経済成長とその問題点について考える。	
		第7章 グローバル化のなかの現代日本	1. 「国際化」する経済大国 2. 新たな世紀の日本へ 期末考査	・日本の高度経済成長が終わりを迎えた経緯を考える ・冷戦終結後の世界と日本を考える。	

3 評価の観点

知識・技能	○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 ○諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、次期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想している。 ○考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論している。
主体的に学習に取り組む態度	○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

4 評価の方法

- ① 年4回実施の定期考査ならびに小テスト等により、出題範囲における知識と資料活用技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。また、1年間を通して、主体的に学習に取り組む態度について評価します。
- ② 課題学習等に作成するレポートを評価のための資料とします。
- ③ 日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。
- ④ 授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

日々の授業では、積極的な参加姿勢が求められます。歴史の学習をただ単に過去の出来事を見るのではなく、過去からの時間のつながりの中で「いま」を生きる我々に与えられた課題を見出し、追究しようとする姿勢で取り組んで欲しいと思います。前後の有機的なつながりを理解し、自らの歴史像を作り上げていくような授業参加を望みます。この授業を通して歴史的な見方や考え方を理解し、より多角的で柔軟な思考を身につけてもらいたいと期待しています。

単位数	3	学科・学年・学級	普通科 2年次 A～G組
教科書	新詳地理探究(帝国書院), 新詳高等地図(帝国書院)	副教材等	新詳地理資料COMPLETE(帝国書院)

1 学習の到達目標

- ① 地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付ける。
- ② ①をふまえ、選択した地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、地誌的な考察方法を身に付ける。
- ③ ①、②をふまえ、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を構想する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境	1節 地形 2節 気候 3節 日本の自然環境 4節 地球環境問題	・地球上の多様な地形と人々と地形の関わりについて理解する。世界各地での人々の生活を理解する。 ・気候が人々に与える影響を考察する。気候区分と自然環境、社会環境との関わりを理解する。 ・主題図と一般図の表現方法や用途を理解する。統計地図の種類と使い分けを理解する。 ・地球環境問題の種類と原因を理解する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査(全4回)
	5	第2章 資源と産業	1節 農林水産業 2節 食糧問題 3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題 中間考査	・農業立地と食糧問題について、自然条件、社会条件、市場条件などとの関わりから理解する。 ・エネルギーの重要性、需要の高まりにより生じる問題点について、多面的・多角的に理解する。 ・化石燃料の消費に伴う資源の枯渇や環境問題、石油に関わる国際政治の動向について理解する。	
	6	第3章 交通・通信と観光、貿易	5節 工業 6節 第3次産業 1節 交通・通信 2節 観光 3節 貿易と経済圏	・工業の立地類型を学び、立地条件が変化する背景や要因、もたらされる課題について理解する。 ・流通産業の発達や消費者行動の変化、それによって生じる小売業立地の変化について理解する。 ・交通・通信の高度化を理解し、そのような社会が進展することによる利点と問題点を理解する。 ・観光産業発達の背景と動向、その地理的展開の特徴について、多面的・多角的に理解する。 ・自由貿易が促進された背景やそれに伴う世界規模での経済連携拡大の状況について理解する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査(全4回)
	7	第4章 人口、村落・都市	1節 人口 2節 人口問題 3節 村落と都市 4節 都市・居住問題	・世界の人口分布の特徴と背景をふまえ、人口の変遷とその要因、今後の予測について理解する。 ・人口問題の特徴とその背景・要因、影響について理解し、克服するための取り組みについて模索する。 ・村落と都市の機能と立地、形態の特徴等を理解し、近年の変化と課題について認識を深める。 ・都市が抱える諸問題と社会的背景、より良い居住環境の創造へ向けた取り組みを理解する。	
	9	第5章 生活文化、民族・宗教	1節 衣食住 2節 民族・宗教と民族問題 3節 国家の領域と領土問題 期末考査	・世界の諸地域における衣食住の形成過程と変容過程について、多面的・多角的に理解する。 ・宗教分布の特徴と形成過程への理解をふまえ、宗教を軸にした文化の多様性について理解する。 ・国家の領域や国境の概念について、具体例をもとに理解する。	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 第2章 現代世界の諸地域	1節 地域区分	・地域を区分することの意義と方法について理解する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全4回）
	11		1節 中国 2節 韓国	・近隣諸国の経済や産業のようすを学び、その動向と変化の特徴について理解する。	
			3節 ASEAN諸国	・東南アジアの多様性や共通性について理解し、工業の発展と産業のグローバル化について考察する。	
	12		4節 インド	・経済自由化や産業開発、工業化の進展について、グローバル化との関わりから理解する。	
			5節 西アジアと中央アジア	・交易を中心に発展した両地域の歴史的経緯をふまえ、人々の生活の特徴について理解する。	
			6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ	・北アフリカとサハラ以南アフリカの共通点と相違点について歴史、生業と文化を指標に理解する。	
	12		7節 EU諸国	・統合が進む背景を民族と宗教との関わりから理解し、統合へ向けての歴史的変遷について認識する。	
			中間考査		
	1	第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究	8節 ロシア	・市場経済への移行に伴う経済、社会、人々の暮らしにおける変化の動向について理解する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全4回）
	2		9節 アメリカ合衆国	・世界最大の経済の社会的背景について、先端技術、金融、鉱産資源などから理解する。	
10節 ラテンアメリカ			・文化・社会・経済の形成の経緯について、歴史的背景をふまえながら理解する。		
3	11節 オーストラリアとニュージーランド		・両国の多文化社会の形成過程を、先住民、各地からの移民との関わりから理解する。		
	1節 将来の国土のあり方 2節 持続可能な日本の国土像の探究		・日本の地域構造の歴史的変遷について理解するとともに、現代の地域構造の特徴によって生じている地理的諸課題について認識を深める。		
			期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	<p>○地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。</p> <p>○地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、世界諸地域の特性とそこで発生する諸課題について理解することで、現代世界の諸地域についての地理的認識を深めている。</p> <p>○調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状について理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。</p>
思考・判断・表現	<p>○地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。</p> <p>○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>○よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>○地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。</p>

4 評価の方法

<p>① 年4回実施の定期考査ならびに小テスト等により、出題範囲における知識と資料活用等の技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。また、1年間を通して、主体的に学習に取り組む態度について評価します。</p> <p>② 課題学習等に作成するレポートを評価のための資料とします。</p> <p>③ 日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。</p> <p>④ 授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。</p>
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

<p>地理は暗記ではなく、地理的なものの見方や考え方を身につけ、分析や表現の技能を習得することが本当の学力になります。また、時事問題にも関心をもち、ニュースや新聞をよく読みましょう。その時に、わからない地名・用語などは地図帳などで調べてみましょう。</p>
--

令和8年度 数学科 「数学Ⅱ」シラバス

単位数	4単位	学科・学年・学級	普通科 2年 A～G組
教科書	数学Ⅱ (数研出版)	副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C [ベクトル]

1 学習の到達目標

いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係	・座標や式を用いて，直線の性質や関係を数学的に表現し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知) ・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
	5	第2節 円 第3節 軌跡と領域	5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域	<p>・座標や式を用いて，円の性質や関係を数学的に表現し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用する。</p> <p>・図形を，与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに，不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し，それらを事象の考察に活用する。</p>	
			中間考査		
	6	第4章 三角関数 第1節 三角関数	1 一般角と弧度法 2 三角関数 3 三角関数の性質 4 三角関数のグラフ 5 三角関数の応用	・角の概念を一般角まで拡張して，三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知)
	7	第2節 加法定理	6 加法定理 7 加法定理の応用 8 三角関数の合成	・加法定理を理解し，それらを事象の考察に活用する。	
	9		期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主) 	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数	1 指数の拡張 2 指数関数	・指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度(主) ・質問に対する応答(主・思・知) ・授業中の演習(主・思・知) ・小テスト(主・思・知) ・課題(主・思・知)
	11	第2節 対数関数	3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数	・対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用する。	
	12		中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
1	1	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	1 微分係数 2 導関数	・微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度(主) ・質問に対する応答(主・思・知) ・授業中の演習(主・思・知) ・小テスト(主・思・知) ・課題(主・思・知)
	3	第3節 積分法	7 不定積分 8 定積分 9 面積	・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査(主・思・知) ・提出物(主)
			期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
思考・判断・表現	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

数学Ⅰと密接に関連していたり発展させたりの内容になっており、高校数学の中核となる科目です。
【数学Ⅱ・B共通】ただ公式や問題の解き方を暗記するのではなく、1つ1つの内容を理解するよう努め、欠席した場合やよく理解できなかった箇所はそのままにせず友人や先生に聞くように心掛けてください。授業はチャイムと同時に始めますので、教材等を準備し着席を完了しておいてください。板書の内容をそのままノートに写すのではなく、説明の中で大切だと思ったことや疑問に感じたことをメモすると、あとで役立ち学習に広がり生まれます。
 習熟度別授業を行います。定期考査は共通問題です。各考査ごとにレッスン替えを行います。

令和8年度 数学科 「数学B」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 2年 A～G組
教科書	数学B (数研出版)	副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C

1 学習の到達目標

数列，統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1章 数列 第1節 数列とその和	1 数列 2 等差数列とその和 3 等比数列とその和 4 和の記号 Σ 5 階差数列 6 いろいろな数列の和	・等差数列，等比数列などの簡単な数列について，一般項や第 n 項までの和を求めたり，記号 Σ の意味を理解してそれを用いたりできるとともに，事象から離散的な変化を見だし，それらの変化の規則性を数学的に表現し考察する。	・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知) ・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
	5		中間考査		
	6	第2節 数学的帰納法	7 漸化式と数列 8 数学的帰納法	・数列の考え方をもとにして，漸化式と数学的帰納法について理解するとともに，事象の再帰的な関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，数列の考えを問題解決に活用する。更に，自然数の性質などを見だし，それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに，他の証明方法と比較して多面的に考察する。	・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知) ・定期考査 (主・思・知) ・提出物 (主)
	7				
	9		期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散 3 確率変数の変換 4 確率変数の和と期待値 5 独立な確率変数と期待値・分散 6 二項分布 7 正規分布 中間考査	・確率変数とその分布の意味を理解できるようにするとともに、確率変数の期待値、分散及び標準偏差が確率分布のどのような特徴を示しているかを理解する。また、二項分布、正規分布について理解し、日常の事象や社会の事象の考察に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知)
	11				
	12				
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	第2節 統計的な推測	8 母集団と標本 9 標本平均とその分布 10 推定 11 仮説検定 期末考査	・確率の理論を統計に応用し、正規分布を用いた区間推定と仮説検定の方法を理解する。更に、母集団の特徴や傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度 (主) ・質問に対する応答 (主・思・知) ・授業中の演習 (主・思・知) ・小テスト (主・思・知) ・課題 (主・思・知)
	2				
	3				

3 評価の観点

知識・技能	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
思考・判断・表現	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

数学は単元の最初の定義が大前提です。基礎的なところに本質があるので、簡単だと考えずきちんと理解するようにしてください。さもないと難しい問題を解いても意味のないものになってしまいます。授業が理解できればよいのではなく、できるだけ疑問を持ち1つずつ解決するようにしましょう。ただ公式や問題の解き方を暗記するのではなく、1つ1つの内容を理解するよう努め、欠席した場合やよく理解できなかった箇所はそのままにせず友人や先生に聞くように心掛けてください。授業はチャイムと同時に始めますので、教材等を準備し着席を完了しておいてください。板書の内容をそのままノートに写すのではなく、説明の中で大切だと思ったことや疑問に感じたことをメモすると、あとで役立ち学習に広がりや生まれます。習熟度別授業を行います。定期考査は共通問題です。各考査ごとにレッスン替えを行います。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 2年 A～G組
教科書	改訂高等学校生物基礎（第一学習社）	副教材等	ニューステージ生物図表（浜島書店） セミナー生物基礎（第一学習社）

1 学習の到達目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第4章 植生と遷移	①植生と環境の関わり ②遷移のしくみ	・植生と環境は密接な関係にあることに気づく。 ・光の強さと光合成速度の関係を、グラフを通じて理解する。	実験等レポート 授業内提出物 前期中間考査
	5	第5章 生態系とその保全	①生態系の成り立ち ②生態系における生物どうしの関わり	・植生は不変ではなく、遷移していることを理解する。 ・地球上には、陸上以外にもさまざまな生態系がみられることを理解する。 ・生物は、食物連鎖（食物網）によってつながっていることを理解する。	
		1. 生態系と生物の多様性 2. 生態系のバランスと保全	①生態系の変動と安定性 ②人間活動による生態系への影響とその対策	・生物の個体数や量は、常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解する。 ・人間活動が生態系にさまざまな影響を与えていることを理解する。	
			中間考査		
	6	第1章 生物の特徴	①生物の多様性と共通性 ②生物の共通性の由来	・地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解する。 ・すべての生物のからだは細胞からなることを見だし、生物が共通にもつ特徴を理解する。 ・原核細胞と真核細胞でそれぞれみられる特徴を理解する。また、細胞小器官の機能の概要を理解する。	実験等レポート 授業内提出物 前期期末考査
	7	2. 生物とエネルギー	①生物とエネルギー ②代謝とATP	・生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。 ・代謝には同化と異化があること、また、エネルギーの移動にはATPが関わっていることを理解する。	
	9		③代謝と酵素	・呼吸と光合成のしくみ、エネルギーの流れについて理解する。 ・酵素の基本的な特徴について理解する。	
			期末考査		

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2章 遺伝子とその働 1. 遺伝子の本 体と構造	①遺伝情報とDNA	・ DNAの基本的な構造を理解する。	実験等レポート 授業内提出物 後期中間考査
	11		②DNAの複製と分配	・ 塩基の相補性にもとづいてDNAが複製されていることに気づき、半保存的複製を理解する。 ・ 細胞の分裂の各過程で起こる現象を理解する。	
			12	①遺伝情報とタンパク質 ②転写と翻訳 ③遺伝子とゲノム	
			中間考査		
	1	第3章 ヒトのからだの 調節 1. 情報の伝達 と体内環境の維 持	①情報伝達と恒常性	・ 恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 ・ 交感神経と副交感神経が拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。 ・ 内分泌系による体内環境の調節の特徴について理解する。	実験等レポート 授業内提出物 後期期末考査
	2		②自律神経系による体内環境の調節 ③内分泌系による体内環境の調節 ④体内環境を調節するしくみ ⑤血液凝固	・ 血糖濃度と自律神経系および内分泌系の関わりについて気づき、血糖濃度調節のしくみについて理解する。 ・ 血液凝固のしくみについて理解する。	
	3		①病原体への防御のしくみ ②自然免疫 ③獲得免疫 ④自然免疫と獲得免疫の特徴 ⑤免疫と生活	・ 免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を理解する。 ・ 自然免疫のしくみを理解する。 ・ 獲得免疫による病原体排除の流れを理解する。 ・ 二次応答や拒絶反応が起こるしくみを理解する。 ・ 自然免疫と獲得免疫の特徴を理解し、お互いに活性化し合って病原体を排除することを理解する。 ・ アレルギーや自己免疫疾患、エイズなど身近な免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。	
			学年末考査		

3 評価の観点

知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

授業内提出物、実験等レポートにより主体的に取り組む態度、知識・技能、思考・判断・表現を評価する。どの観点を評価するかは、授業内提出物や実験等レポートの種類による。
定期考査により知識・技能、思考・判断・表現を評価する。
評価材料をもとに観点別に評価を行い、それらを総合的に判断して最終評価を行う。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

基礎生物で扱う多くのテーマは私たちの生活の中で見られる事柄と関連しており、さらに私たち自身が生命活動を行うにあたり、身体の中でどのようなことが起きているのかなど、分子 (DNA) レベルから学んでいきます。
授業を通して、あなたたち自身のこれまでの経験や知識を関連付けながら、より専門的な理解を深めて専門知識を定着させていきましょう。

令和8年度 理科 「地学基礎」 シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	普通科・2年・ABCDEF組
教科書	啓林館 高等学校 地学基礎 (改訂版)	副教材等	センサー 地学基礎 4thEditon

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら、宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。また、地球や地球を取り巻く環境に対して目的意識をもって観察・実験を行い、地学的に探究する能力と態度を育てる。地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、地学的な見方や考え方を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1部 地球の構造と活動			
		1章 地球の構造 1節 地球の概観 2節 地球内部の構造 2章 活動する地球	<ul style="list-style-type: none"> ・ エラトステネスの測距法 ・ 地球内部の層構造 ・ plate tectonics 	<ul style="list-style-type: none"> ① 太陽系の他の惑星と比較しながら、地球の特徴を調べ、地球の誕生について学ぶ。 ② 地球の大きさに対するスケールを理解し、その歴史をふまえて学ぶ。 ③ 固体地球の層構造や構成物質の化学組成を学び、次項のプレートにつなげる。 ④ プレートの運動について学ぶ。火山活動と地震活動が一つの仮説にまとめられることにふれる。 ⑤ プレートの沈み込み地帯で起こる地震現象を理解する。それに伴う変動地形と変成作用に言及する。 ⑥ マグマの性質と火山の噴火形式と火山地形の関係を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度 ・ 発問評価 ・ 実習レポート提出 ・ 定期考査
	5	1節 プレートテクトニクスと地球の活動 2節 地震 3節 火山活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震の発生機構 ・ 火山噴出物 		
			中間考査		
	6	第2部 大気と海洋			
		1章 大気と海洋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽定数と地球放射 	<ul style="list-style-type: none"> ① 大気圏の構造とともに、太陽の放射エネルギーによる地球の熱収支について理解する。 ② 太陽の放射エネルギーが大気の運動を生じさせ、気象の変化を起こしたり、熱収支のバランスを保つたりすることを理解する。 ③ 海洋も同じように熱収支のバランスにとって重要であることを理解する。 ④ 日本で見られる季節の気象と偏西風波動との相関を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度 ・ 発問評価 ・ 実習レポート提出 ・ 定期考査
		1節 大気圏 2節 対流圏における水と気象 2章 太陽放射と大気・海水の運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海流と気候変動との関係 		
	7	1節 地球のエネルギー収支 2節 大気の大循環 3節 海水の循環			
		3章 日本の天気			
		第1節 日本の気象に変化をもたらす要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本周辺の気団 ・ 偏西風の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ シベリア・オホーツク海・小笠原・長江（揚子江）気団の温度・湿度の違いを整理する。偏西風が低気圧や高気圧を西から東へ運ぶ「運び屋」であることを理解する。 ⑥ 揚子江気団から切り離された高気圧が西から東へ移動することで、天気が数日周期で変わることを学ぶ。 ⑦ 小笠原気団が日本を覆い、等圧線の間隔が広がる「クジラの尾」型の気圧配置を学ぶ。強い日射による積乱雲の発生と、熱帯低気圧（台風）の発達プロセスを理解する。 	
	9	第2節 冬の天気 第3節 春の天気 第4節 夏の天気 第5節 秋の天気	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬の季節風と降雪のメカニズム ・ 移動性高気圧と温帯低気圧 ・ 南高北低の気圧配置 		
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
後期	10	第3部 移り変わる地球	<ul style="list-style-type: none"> ・宇宙・太陽系の成り立ち ・上下判定に寄与する堆積構造 	①宇宙や太陽系の成り立ちについて、基本的な歴史を理解できる。 ②宇宙や太陽系の成り立ちについて、基本的な原理を説明できる。 ③太陽エネルギーと位置エネルギーがどのように地形の変化や堆積作用にかかわっているかを学ぶ。 ④地層の重なりや変形の様子を観察する方法とともに、その形成過程を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査 	
		1章 宇宙と地球				
		第1節 宇宙の誕生 第2節 太陽系の誕生				
	11	2章 地球史の読み方				
		第1節 地層の形成 第2節 地層の読み方				
		第3節 地質年代の区分				
	12		中間考査			
月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等		
1	3章地球と生命の進化	<ul style="list-style-type: none"> ・示準化石と示相化石 ・地球の自然史 	①地球と生命の歴史をひもとき、地球と生命の関係の理解を深める。 ②生物界や地球環境の変遷と地質時代の区分や時間的なスケールを理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査 		
2	第4部 自然との共生	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーと生態系 ・災害 	③台風の進路予測の見方や、線状降水帯が発生した際の危険性を学ぶ。積雪荷重による倒壊や雪崩のメカニズムを理解する。			
3	第3節 気象災害 第4節 災害と社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化 	④温室効果ガスの増加が、日本の四季（梅雨の長期化や猛暑日の増加）にどう影響しているかを学ぶ。			
	第5節 地球環境の変化	期末考査				

3 評価の観点

知識・技能	地球や地球を取り巻く環境について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境に関する事物・事象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	実習の振り返りや発展的な内容の問いかけに粘り強く考え、根拠を持って自らの考えを示すことができる。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

視聴覚教材や情報機器の活用で教科書の内容を積極的に補完し、より豊かなイメージをもつことができるようにします。必要な事柄を要領良く記録してください。学習の計画及び評価方法等に変更が生じる場合は、口頭もしくは文書で案内します。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・2年・A組 (SSHコース)
教科書	啓林館高等学校地学基礎 (改訂版)	副教材等	センサー地学基礎4thEditon・スクエア最新図説地学

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら、宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。また、地球や地球を取り巻く環境に対して目的意識をもって観察・実験を行い、地学的に探究する能力と態度を育てる。地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、地学的な見方や考え方を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
前期	4	第1部 固体地球とその活動	<ul style="list-style-type: none"> ・エラトステネスの測距法 ・地球内部の層構造 ・plate tectonics 	①太陽系の他の惑星と比較しながら、地球の特徴を調べ、地球の誕生について学ぶ。 ②地球の大きさに対するスケールを理解し、その歴史をふまえ学ぶ。 ③固体地球の層構造や構成物質の化学組成を学び、次項のプレートにつなげる。 ④プレートの運動について学ぶ。火山活動と地震活動が一つの仮説にまとめられることについてふれる。 ⑤プレートの沈み込み地帯で起こる地震現象を理解する。それに伴う変動地形と変成作用まで言及する。 ⑥マグマの性質と火山の噴火形式と火山地形の関係を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査 	
						1章 地球
						1節 地球の外観
						2節 地球の内部構造
						2章 活動する地球
	5	1節 プレートテクトニクスと地球の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の発生機構 ・火山噴出物 	①大気圏の構造とともに、太陽の放射エネルギーによる地球の熱収支について理解する。 ②太陽の放射エネルギーが大気の運動を生じさせ、気象の変化を起こしたり、熱収支のバランスを保ったりすることを理解する。 ③海洋も同じように熱収支のバランスにとって重要であることを理解する。 ④日本で見られる季節の気象と偏西風波動との相関を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査 	
						2節 地震
						3節 火山活動と火成岩の形成
						中間考査
						6
7	1章 大気圏の構造	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽定数と地球放射 ・海流と気候変動との関係 	①大気圏の構造とともに、太陽の放射エネルギーによる地球の熱収支について理解する。 ②太陽の放射エネルギーが大気の運動を生じさせ、気象の変化を起こしたり、熱収支のバランスを保ったりすることを理解する。 ③海洋も同じように熱収支のバランスにとって重要であることを理解する。 ④日本で見られる季節の気象と偏西風波動との相関を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査 		
					1節 大気圏	
					2節 水と気象	
					2章 太陽放射と大気・海水の運動	
					3章 日本での天気	
9	1節 地球のエネルギー収支	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽定数と地球放射 ・海流と気候変動との関係 	①大気圏の構造とともに、太陽の放射エネルギーによる地球の熱収支について理解する。 ②太陽の放射エネルギーが大気の運動を生じさせ、気象の変化を起こしたり、熱収支のバランスを保ったりすることを理解する。 ③海洋も同じように熱収支のバランスにとって重要であることを理解する。 ④日本で見られる季節の気象と偏西風波動との相関を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査 		
					2節 大気の大循環	
					3節 海水の循環	
					3章 日本での天気	
					期末考査	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第3部 移り変わる地球	<ul style="list-style-type: none"> ・宇宙・太陽系の成り立ち ・示準化石と示相化石 ・地球の自然史 	①宇宙や太陽系の成り立ちについて、基本的な歴史を理解できる。 ②宇宙や太陽系の成り立ちについて、基本的な原理を説明できる。 ③地球と生命の歴史をひもとき、地球と生命の関係の理解を深める。 ④生物界や地球環境の変遷と地質時代の区分や時間的なスケールを理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査
	11	1章 地球の誕生			
	12	2章 地球と生命の進化			
			中間考査		
月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
1	3章 地球史の読み方	<ul style="list-style-type: none"> ・上下判定に寄与する堆積構造 	①太陽エネルギーと重力による位置エネルギーがどのように地形の変化や堆積作用にかかわっているかを学ぶ。 ②地層の重なりや変形の様子を観察する方法とともに、それがどのようなしくみでできあがったかを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査 	
2	第4部 自然との共生				
3					
			期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	地球や地球を取り巻く環境について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境に関する事物・事象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	実習の振り返りや発展的な内容の問いかけに粘り強く考え、根拠を持って自らの考えを示すことができる。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

視聴覚教材や情報機器の活用で教科書の内容を積極的に補完し、より豊かなイメージをもつことができるようにします。必要な事柄を要領良く記録してください。学習の計画及び評価方法等に変更が生じる場合は、口頭もしくは文書で案内します。

令和8年度 理科 「化学研究α」 シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	普通科 2年A組～G組 選択者
教科書	高等学校 化学 (第一学習社)	副教材等	セミナー化学基礎+化学 (第一学習社) サイエンスビュー化学総合資料 (実教出版) Let's Try NOTE 化学Vol.3無機物質 (東京書籍)

1 学習の到達目標

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第Ⅱ章 物質の変化 と平衡	②電気分解 ③電気分解の応用	<ul style="list-style-type: none"> ・電気エネルギーを取り出す電池のしくみを酸化還元反応と関連付けて理解する。 ・外部から加えた電気エネルギーによって電気分解が起こることを、酸化還元反応と関連付けて理解する。 ・反応に関与した物質の変化量が流れた電気量に比例することを理解する。 ・電気分解の利用として、電解精錬や熔融塩電解を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
		第Ⅰ章 物質の状態			
	5	第Ⅰ節 物質の状態変化	①物質の三態とその変化 ②気体分子の熱運動と圧力 ③飽和蒸気圧と蒸気圧曲線	<ul style="list-style-type: none"> ・物質の三態の変化を復習し、その変化に伴う熱の出入りを理解する。 ・物質の沸点・融点を分子間力や化学結合と関連付けて理解する。 ・気体の圧力が気体分子の熱運動と密接に関係することを理解する。 ・状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解する。 	
	6	第Ⅱ節 気体の性質	①気体の法則 ②気体の状態方程式 ③理想気体と実在気体	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則を理解し、その応用を学習する。 ・気体の状態方程式を理解し、分子量の測定法に活用できることを学習する。また、全圧と分圧を学習し、混合気体の平均分子量を理解する。 ・理想気体と実在気体との違いを理解する。 	
	7	第Ⅲ節 固体の構造	①化学結合と結晶の種類 ②金属結晶の構造 ③イオン結晶の構造 ④共有結合の結晶の構造 ⑤分子結晶の構造 ⑥非晶質	<ul style="list-style-type: none"> ・化学結合と結晶の性質について、復習する。 ・金属結晶の構造について理解する。 ・イオン結晶の構造について理解する。 ・共有結合の結晶の構造について理解する。 ・分子結晶の構造について理解する。 ・非晶質について理解する。 	
	9		期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第4節 溶液の性質	①溶解と溶液 ②希薄溶液の性質 ③コロイド	<ul style="list-style-type: none"> 溶解のしくみを理解し、固体および気体の溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。 凝固点降下、沸点上昇、浸透圧の定量的な扱いを理解する。 コロイドを理解し、その溶液の性質を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 実験レポート 小テスト 定期考査
	11	第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第1節 化学反応と熱・光	①化学反応とエンタルピー変化 ②ヘスの法則 ③結合エネルギー ④化学反応と光 ⑤エントロピー	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差が熱の発生や吸収となって現れることを理解する。 ヘスの法則を理解する。 結合エネルギーを理解する。 化学反応には、光を放出・吸収するものがあることを理解する。 吸熱反応が自発的に進む要因について理解する。 	
	12		中間考査		
	1	第Ⅲ章 無機物質 第1節 周期表と元素の性質	①元素の分類と性質 ②化合物の性質と周期表	<ul style="list-style-type: none"> 元素の分類を理解する。 典型元素の性質は周期表と関連させて整理できることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 実験レポート 小テスト 定期考査
	2	第2節 非金属元素	①水素 ②18族元素 ③17族元素	<ul style="list-style-type: none"> 水素とその化合物について、性質や用途を理解する。 貴ガスについて、性質や用途を理解する。 ハロゲンとその化合物について、性質や用途を理解する。 	
	3		④16族元素 ⑤15族元素 ⑥14族元素 ⑦無機化学工業	<ul style="list-style-type: none"> 酸素・硫黄とその化合物について、性質や用途を理解する。 窒素、リンとその化合物について、性質や用途を理解する。 炭素、ケイ素とその化合物について、性質や用途を理解する。 無機物質の製法について、理解する。 	
	3		期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価の方法

<p>下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。</p> <p>(1)授業への取組 授業に対する姿勢、学習態度、化学への関心等で判断する。</p> <p>(2)ノート等の記載内容 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができていかなどを評価する。</p> <p>(3)観察・実験等 観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。</p> <p>(4)教科書・問題集の問題 各問題への取組、取り組んだ内容から評価する。</p> <p>(5)中間・定期考査 学習内容に合わせて問題を出題する。</p>

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

<ol style="list-style-type: none"> 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもつこと。 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

令和8年度 保健体育科 「体育」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・理数科 2年A組～H組
教科書	新高等保健体育	副教材等	なし

1 学習の到達目標

<p>1, 運動の合理的, 計画的な実践を通して, 運動の楽しさや喜びを深く味わい, 生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため, 運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに, それらの技能を身に付けられるようにする。</p> <p>2, 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて思考し判断するとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>3, 運動における競争や協働の経験を通して, 公正に取り組む, 互いに協力する, 自己の責任を果たす, 参画する, 一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに, 健康・安全を確保して, 生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。</p>
--

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	体づくり運動	体づくり運動	さまざまな健康の考え方自己の体力や生活に応じて, 体の調子を整える等のほぐしの運動を中心に行います。	課題カード等
	5	選択体育	屋外スポーツ テニス サッカー ソフトボール 屋内スポーツ 卓球 バレーボール バスケットボール バドミントン 武道 柔道 剣道	前期・後期で1種目ずつ(計2種目)を選択します。 種目の特性を理解し, 自己やグループの能力に応じた課題の発見・解決を目指し, 皆で協力し計画を立て, 実践していきます。 運動・スポーツの楽しさや喜びを味わうことができるよう, 自ら進んで活動します。	出欠 グループノート 参加意欲・態度 スキルテスト
	6	水泳	水泳 泳力測定 時間泳	今ある技能, 泳力を測定します。 今できる泳ぎ方でより長く泳ぐことに挑戦して水泳の楽しさや喜びを味わえるようにします。 より高度な技能の習得と, 新たな泳法の習得を行い, 自己の課題解決をするなど泳法の高まりに応じて競泳の仕方を工夫します。 記録に挑戦して, 技能を高めます。 ・4泳法選択練習 ・キック, プル, コンビ, ターン練習 ・タイム測定	出欠 参加意欲・態度 時間泳距離測定 タイム測定 見学レポート
9	体育理論	運動・スポーツの学び方	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について学習します。また, 健康を成り立たせている要因について説明できるようにします。		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	選択体育	屋外スポーツ テニス サッカー ソフトボール 屋内スポーツ 卓球 バレーボール バスケットボール バドミントン 武道 柔道 剣道	前期の選択種目と異なる種目を選択し、前期で学んだことを基礎に、種目の特性を理解し、計画や目標を立て自ら進んで学習します。	出欠 グループノート 参加意欲・態度 スキルテスト
	11				
	12				
	1	陸上競技	持続走	距離走を行い、自分の能力に応じたペースで走り、記録の向上を目指します。 心肺機能を高める運動を行うことにより、健康の保持増進につながる活動を、自らの生活の中で実践できる態度や能力を身につけます。	出欠 タイム測定 見学レポート
	2				課題カード等
	3	体づくり運動	体づくり運動	自己の体力や生活に応じて、体の調子を整える等のほぐしの運動を中心に行います。	

3 評価の観点

知識・技能	選択した種目で必要とする技術、体力やその高め方、動きや改善のポイント、仲間と継続的に活発に活動するための調整の仕方等を理解し身に付けている。
思考・判断・表現	自己や仲間が継続的にスポーツと多様に関わる中で広い視野に立って課題を発見できる。自ら計画を立て実践し課題の解決に向け工夫し努力できる。その課題について思考・判断したことを言葉や動作で表現でき、理論的に伝えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	それぞれの種目の活動を通して運動の特性を理解し、その楽しさや喜びを深く味わうことができる。公正に取り組み、互いに協力して自己の責任を果たすことができる。運動やスポーツを継続して実践できる意欲がある。

4 評価の方法

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

安全に楽しく運動することが大切です。運動するのにふさわしい指定の服装に心がけ自己の能力を最大限発揮できるよう努力しましょう。また、生涯を通じて運動に親しむことができるよう運動の方法や理論なども身につけられるようにしましょう。スキルテストで高得点を取ることが目標ではなく、様々な運動技能の発達を促すことを目指し、仲間との関わりを大切にしながら展開していきます。

令和8年度 保健体育科 「保健」 シラバス

単位数	1 単位	学科・学年・学級	普通科・理数科 2年A組～H組
教科書	新高等保健体育 (大修館書店)	副教材等	なし

1 学習の到達目標

- 1, 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに, 技能を身に付けるようにする。
- 2, 健康についての自他や社会の課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて思考し判断するとともに, 目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- 3, 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し, 明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	3生涯を通じる健康	1 思春期と健康	思春期における心身の発達や性的成熟について理解する。思春期に起こりやすい健康課題について理解する。	【評価方法, 課題・提出物等】 学期末考査の成績 プリント・ワークシートや提出物の内容 学習活動への参加の意欲や状況等を総合的に評価します。
			2 性意識の変化と性行動の選択	自分の行動への責任感や異性の理解と尊重の必要性について理解する。性行動の選択には性情報への適切な対処が必要であることを理解する。	
3 結婚生活と健康	結婚生活と健康との関係について理解する。結婚生活における夫婦関係, 親子関係による健康への影響について理解する。				
4 妊娠・出産と健康	受精, 妊娠, 出産の過程と, それに伴う健康課題について理解する。妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解する。				
	5		中間考査		
	6		5 家族計画	家族計画の意義について理解する。人工妊娠中絶が心身へ与える影響について理解する。	
	7		6 加齢と健康	加齢による心身の変化や, 高齢期の健康課題について理解する。若年期の生活習慣が中高年期の健康に影響することを理解する。	
			7 高齢社会に対応した取り組み	高齢社会における健康課題について理解する。高齢者の暮らしや健康を支えるために必要な社会の取り組みについて理解する。	
			8 働くことと健康	働くことの意義と働き方の多様化について理解する。働く人における健康問題について理解する。	
			9 労働災害の防止	労働環境の変化に伴い, 労働災害の要因も変化していることを理解する。労働災害を防止するための様々な取り組みについて理解する。	
			10 働く人の健康づくり	職場での心身両面にわたる積極的な健康づくり活動について理解する。働く人の健康には余暇の活用など生活の質の向上も重要であることを理解する。	
	9		期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	4健康を支える環境づくり	1 大気汚染と健康	大気汚染による健康への影響について理解する。地球規模で起きている大気環境の問題について理解する。	【評価方法，課題・提出物等】 学期末考査の成績 プリント・ワークシートや提出物の内容 学習活動への参加の意欲や状況等を総合的に評価します。
	11		2 水質汚濁・土壌汚染と健康	水質汚濁による健康への影響について理解する。土壌汚染による健康への影響について理解する。	
			3 健康被害を防ぐための環境対策	環境汚染による健康への影響を防ぐために行われている対策について理解する。産業廃棄物の処理や新たな環境汚染の課題について理解する。	
			4 環境衛生に関わる活動	安全な水の確保のために必要な上下水道の整備の現状と課題について理解する。生活環境を保全するためのごみ処理の現状と，今後の課題について理解する。	
			5 食品の安全性と健康	食品の安全性が損なわれると健康被害が生じる可能性があることを理解する。人々の健康を支えるためには食品の安全性の確保が重要であることを理解する。	
	12		6 食品の安全性を確保する取り組み	食品の安全性を確保するための行政や生産・製造者の役割について理解する。食品による健康被害を防ぐために私たち消費者が果たす役割について理解する。	
		中間考査			
月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
1		7 保健制度とその活用	保健行政の役割について理解する。健康の保持・増進には保健サービスの適切な活用が必要であることを理解する。医療保険の仕組みについて理解する。医療サービスの適切な活用方法について理解する。医薬品には承認制度や販売に関する規制が設けられていることについて理解する。医薬品は，使用法に関する注意を守り，正しく使う必要があることを理解する。日本や世界では健康課題に対応した保健活動や対策が行われていることを理解する。国際機関や民間機関などにより行われている様々な保健活動や対策について理解する。自他の健康の保持・増進には健康を支える環境づくりが重要であることを理解する。健康を支える環境づくりへの積極的な参加が自他の健康につながることを理解する。		
		8 医療制度とその活用			
		9 医薬品の制度とその活用			
		10 様々な保健活動や対策			
		11 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境作り			
2					
3					
		期末考査			

3 評価の観点

知識・技能	現代社会と健康，安全な社会生活について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
思考・判断・表現	現代社会と健康，安全な社会生活について，課題の解決を目指して総合的に考え，判断し，それらを表している。
主体的に学習に取り組む態度	現代社会と健康，安全な社会生活について，課題の解決を目指して粘り強い取組を行おうとし，自らの学習を調整しようとしている。

4 評価の方法

<p>「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から評価規準に従い，総合的に評価する。</p> <p>【評価方法，課題・提出物等】 学期末考査の成績，プリント・ワークシートや提出物の内容，学習活動への参加や状況等を総合的に評価します。</p> <p>【年間の学習状況の評価方法】 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点にもとづいて評価された各学期の成績を総合して，学年の学習成績とします。</p>
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス，授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

<p>「保健」は，「健康を保つ」ことを取り扱う授業で，毎週1時間の授業が行われます。健康問題がテレビや新聞等で大きく取り扱われる現状の中で，正しい情報を取り入れ適切な生活行動を選択できるようになることが求められています。</p> <p>「保健」では，自分や家族の健康を保持増進するための基本的な事項を理解するだけでなく，日常生活の中の課題を見つけ出し解決の方法を導き出すことが出来るような授業を展開します。</p> <p>日常生活において，空気と同じように，あって当然，なくなると困るもの，それが健康です。毎日の生活の中で「身体の健康」「心の健康」に目を向けましょう。</p>
--

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 2年C組
教科書	MOUSA 2	副教材等	なし

1 学習の到達目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	歌唱	・糸	・音符や休符の意味を理解し、読譜能力を高める。 ・正しい姿勢、正しい発声、正しい音程とリズムを身に付ける。 ・仲間と協働し、美しいハーモニーを作る。	観察、プリント
	5	器楽	・キーボード	・指のトレーニング、ハノンより1番～3番 ・ハノンより4番～6番 ・ハノンより7番～9番 ・ハノンより1番～9番を変奏	観察、実技試験
	6	器楽	・ピアノ、電子ピアノ、キーボード	・自由曲を選曲し、演奏する。	観察、プリント 実技試験
	7				
9	鑑賞	・歌劇「カルメン」	・オペラの特徴を理解して鑑賞する。 ・時代背景や作曲者について理解し、音楽の特徴を感じ取って鑑賞する。	観察、プリント	
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	歌唱	・野ばら	・ドイツリートの特徴を理解して歌う。 ・歌詞の意味や音楽記号・用語の意味を理解し、表情豊かに歌う。	観察、プリント 実技試験
	11	鑑賞	・オペラ座の怪人	・ミュージカルの特徴を感じ取って鑑賞する。	観察、プリント
	12	器楽	・器楽アンサンブル	・基本的な奏法を身に付け、演奏する。 ・音楽表現を工夫し、演奏する。 ・他の音を良く聴きながら、アンサンブルする。	観察、プリント 実技試験
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	器楽 創作	・器楽曲の創作	・和音進行を理解し、多声部の旋律を創る。 ・作曲した作品を、表現を工夫して演奏する。	観察、プリント 実技試験
	2				
	3				

3 評価の観点

知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

音楽を通して豊かな表現力を身に付け、自分の感じたことを自由に表現する喜びを学んでください。表現領域（歌唱、器楽、創作）では、発表会形式の実技試験を行います。人前で自己表現する力を身に付けましょう。鑑賞では、ただ聴く・観るだけでなく、楽曲が作られた時代や作曲者の人物像を学び、それが楽曲にどう影響しているかを考えながら授業に臨んでください。

音楽は人生に彩りを与えてくれます。様々な音楽に触れ、人生を豊かにし、一緒に「音」を「楽」しましょう。

令和8年度 芸術科 「 美術Ⅱ 」 シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	2年 C 組
教科書	高校生の美術 2	副教材等	アクリル絵の具セット、彫刻刀等

1 学習の到達目標

- 1, 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに意図に応じて表現方法を創意工夫し個性豊かで創造的に表すことができるようにする。
- 2, 創造的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し、構想を練ったり、自己の価値意識を高めて美術に関する見方、感じ方を深める。
- 3, 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	絵画表現 油絵で描く	油絵作品とは	作品鑑賞 教科書、参考作品などを鑑賞ながら、油絵について学習し、多様なイメージの組み合わせによる絵画表現方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・発言内容 ・授業態度 ・制作活動の様子 ・スケッチブック ・作品 ・鑑賞プリント
	5		本作品制作	イメージスケッチ 無作為に選び出した単語を写実的に描く練習をした後、構図やバランスを考えながら、現実にはあり得ない架空の世界や超現実的な世界を表現できるよう作品イメージを練る。	
	6			油絵作品制作 イメージスケッチを元に本作品をキャンバスに制作、着彩まで施す。	
	7			作品鑑賞 他者の作品から創造的な表現の工夫を感じ取りワークシートにまとめる。	
前期後半 後期前半	9	工芸彫刻 リアル木彫	彫刻の歴史	他者の作品から創造的な表現の工夫を感じ取りワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・制作活動の様子 ・作品 ・鑑賞プリント
10	制作計画を練る		アイデアデッサン 作りたい題材を決め、様々な角度からデッサンをし、題材の形の成り立ちを理解する。		
12	本作品制作 けがき 面取り 荒削り かたちを整える		木彫制作 木材の前面に下書きを施し、彫刻刀の扱い方に注意しながら彫り進める。 大体の形が出来上がってきたら、題材の質感に合わせてサンドペーパーで磨く。		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	1	リアル木彫	本作品制作		<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度 ・ 制作活動の様子 ・ 作品 ・ 鑑賞プリント
	2				
	3		作品鑑賞会	生徒相互で作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を感じ取り、鑑賞プリントにまとめる。	

3 評価の観点

知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・ 意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考える事ができる。 ・ 自ら主題を生成し個性豊かに発想し構想を練っている。 ・ 自己の価値感を高め、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。 ・ 感性と美意識を高め、美術文化に親しもうとしている。

4 評価の方法

<p>知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。</p>
--

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

美術Ⅱの授業では美術Ⅰで学んだ事の発展となります。美術Ⅰの授業を思い出し、身につけた技術が無駄にせず応用していきましょう。しかし、なによりも大切なのは自分の世界観を大切にしていくことです。自分なりの表現方法をこの1年で模索していきましょう。

※授業内容や時間配分などは、作品の進行状況によって変更する場合があります。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・2年次・C組
教科書	書Ⅱ（光村図書）	副教材等	

1 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	漢字の書	臨書	・篆書、隸書、草書の古典臨書。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況や態度 ・ワークシートの記入状況 ・提出作品
	5				
	6				
	7	漢字仮名交じりの書	作品制作①（扇子）	<ul style="list-style-type: none"> ・扇子作品を制作する。 ・日常生活に溶け込む書の表現方法を考える。 	
	9		作品制作②（和紙ファイル）	<ul style="list-style-type: none"> ・和紙ファイルに作品を書く。 ・完成した作品を相互鑑賞する。 	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	仮名の書	作品制作③ (色紙箋)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散らし書きの知識と技術を学び、作品を制作する。 ・ 完成した作品を相互鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動への参加状況や態度 ・ ワークシートの記入状況
	11	漢字の書	作品制作④ (篆刻)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の名前を用いた姓名印を制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出作品
	12	生活の中の書	作品制作⑤ (カレンダー)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨書作品もしくは創作作品を制作する。 ・ 手書きのよさや楽しさを知り、効果的な表現方法を考える。 ・ 完成した作品を相互鑑賞する。 	
	1	漢字の書 仮名の書	作品制作⑥ (半切1/4)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を制作し、表装する。 ・ 注意点等、表装に関する知識と技術を学ぶ。 ・ 完成した作品を相互鑑賞する。 	
	2				
	3				

3 評価の観点

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について理解を深めている。 ・ 書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための技能を身に付け、表している。
思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の表現及び鑑賞の創造的な活動に取り組もうとしている。

4 評価の方法

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から評価規準に従い、総合的に評価します。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

- ・ 書道Ⅱの授業では倣書や創作といった作品制作が中心となります。書道Ⅰで学んだ知識・技術を活用し、自分らしい作品や日常に溶け込む作品制作しましょう。そして、書による自己表現を楽しみ味わいましょう。
- ・ 作品制作は構想→試行錯誤(練習)→鑑賞の流れで進め、鑑賞から得たものを次の作品に生かすことが大事です。完成品だけでなくそこに至るまでの過程も記録・保管しておきましょう。
- ・ 美しいものを美しいと感じる心を一緒に育てていきましょう。自らの感性を大切に、様々な書を鑑賞することが第一歩です。
- ・ 文房四宝は丁寧に取り扱い、使用後のお手入れを怠らないことが上達への近道です。

後期学習指導計画										
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教科名等)	評価の観点	領域					評価項目数	主な評価規準 (評価方法)
				聞	読	取	発	書		
10	<L>身近な事柄や社会的な事柄について、はっきりとした短い会話を聞いて、概要(話題)となっている場所、発音の理由)や詳細(ボタンの特徴)聞き取ることができる。 <R>社会的な事柄について比較的平易な英語で書かれた短い説明文を読んで、必要であれば語彙を調べたりしながら、構成を把握したり、概要や詳細を理解したり、情報を事実と意見に整理することができる。 <S>①本文に関連する写真やキーワードなどの手がかりがあれば、簡単な表現を使って、語の要点を伝えることができる。身近な事柄について、あまり準備をしなくても、短い文や簡単な表現を使って伝え合うことができる。 <W>読んだ英文について、簡単な語句や表現を使って、理由を示しながら自分の考えを書くことができる。	Lesson 5 How Our Minds Work	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
11	<L>身近な事柄や社会的な事柄について、はっきりとした短い会話を聞いて、出来事の詳細を理解することができる。 <R>社会的な事柄について比較的平易な英語で書かれた短い説明文を読んで、構成を把握したり、概要や詳細を理解したり、情報を事実と意見に整理することができる。 <S>本文に関連する写真やキーワードなどの手がかりがあれば、簡単な表現を使って、語の要点を伝えることができる。身近な事柄について、あまり準備をしなくても、短い文や簡単な表現を使って、自分の考えや気持ちを伝えることができる。<W>自分を変えた経験について、簡単な語句や表現を使って書くことができる。	Lesson 8 A Tiny Step, a Big Impact クロスカリキュラム実施予定	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
12	<R>平易な英語で書かれた短い物語文を読んで、概要や詳細を理解することができる。	Further Reading 2	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	3	定期考査 ・単語テスト ・スピーキングテスト ・ワークシート記述 ・課題レポート ・授業内活動 など	
	<R>非常に短く平易な英語で書かれたSNSの要点を理解することができる。 <S>身近で社会的な事柄について、あまり準備をしなくても、短い文や簡単な表現を使って、自分の意見を伝え合うことができる。 <W>身近で社会的な事柄について、簡単な表現を使って、自分の意見を書くことができる。	Communication in Practice 2	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	12		
中間考査										
1	<L>身近な事柄や社会的な事柄について、はっきりとした短い会話を聞いて、必要な情報(症状、予約、薬の時間など)聞き取ることができる。 <R>社会的な事柄について比較的平易な英語で書かれた短い説明文を読んで、構成を把握したり、概要や詳細を理解したり、情報を事実と意見に整理することができる。 <S>本文に関連する写真やキーワードなどの手がかりがあれば、簡単な表現を使って、語の要点を伝えることができる。身近な事柄について、あまり準備をしなくても、短い文や簡単な表現を使って、自分の考えや気持ちを伝えることができる。<W>グラフや表を参考に、簡単な語句や表現を使って、自分の考えを書くことができる。	Lesson 7 Advances in Medical Technology	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
2	<L>身近な事柄や社会的な事柄について、はっきりとした短い会話を聞いて、必要な情報(バス停の場所)や概要(様子、状況)聞き取ることができる。 <R>平易な英語で書かれた短い物語文を読んで、話の流れを把握したり、概要や詳細を理解したり、行間を読み取ることができる。 <S>本文に関連する写真やキーワードなどの手がかりがあれば、簡単な表現を使って、語の要点を伝えることができる。身近な事柄について、あまり準備をしなくても、短い文や簡単な表現を使って、自分の考えや気持ちを伝えることができる。 <W>身近で社会的な事柄について、簡単な語句や表現を使って、理由を示しながら自分の考えを書くことができる。	Lesson 6 IT and Life	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
3	<R>平易な英語で書かれた短い物語文を読んで、概要や詳細を理解することができる。	Further Reading 3	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	3	定期考査 ・単語テスト ・スピーキングテスト ・ワークシート記述 ・課題レポート ・授業内活動 など	
	<L>比較的短く、明瞭で簡単なアナウンスを聞いて、必要な情報を理解することができる。 <R>短く平易な文章を読んで、状況を理解することができる。 <S>話し合った内容について、簡単なことばで要点を伝えることができる。状況に応じた判断を要する場面で、準備をしなくても、短い文や簡単な表現を使って、自分の意見や理由を伝え合うことができる。	Communication in Practice 3	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
期末考査										

評価の観点	聞くこと	読むこと	話すこと(やり取り)	話すこと(発表)	書くこと
知識 技能	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文等を読み、その内容を捉える技能を身に付けている。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、話し合ったり取り合ったりしている。 論理性に注意して話し合ったりしている。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝える技能を身に付けている。	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を身に付けている。
思考 判断 表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、話し手の意図や概要、要点を捉えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要、要点を捉えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、話し合ったり取り合ったりしている。 論理性に注意して話し合ったりしている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝えている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝えている。
主体的に 学習に 取り組む 態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自発的に英語で話されることを聞こうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的、自発的に英語で書かれたことを読もうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自発的に英語を用いて話し合おうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自発的に英語を用いて話そうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自発的に英語を用いて書こうとしている。
評価の方法		①定期考査②単語テスト③ワークシート記述欄④授業内活動 などを上記3観点に基づき、総合的に評価します。「普通科と理数科の評価方法は違います。」			
担当者からのメッセージ (備わった学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)		辞書は毎回必ず持参しましょう。予習よりも復習の方が大切です。			

令和8年度 外国語「論理・表現Ⅱ」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・理数科 2年A組～H組
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression II (桐原書店)	副教材等	教科書準拠ワークブック (桐原書店) 及び be 総合英語 4th Edition (いいずな書店)

1 学習の到達目標

「論理・表現Ⅱ」の学習内容を踏まえ、「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、発信能力を強化するための発展的な活動を行うとともに、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えたり、伝え合ったりすることができる能力を養う。

2 学習の計画

月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	領域					主な評価規準 (評価方法)	
				知	思	感	取	発		
4	相手も知っていると思われる情報を伝え、相手が説明したものの効果に懐疑的であることを示すことができる。 人々が抱える健康の問題や健康のための習慣について議論したり、健康の問題や健康のための習慣について長めの意見を述べたりすることができる。 文型や主語の拡張を理解し、正しく使うことができる。	Unit1 How should we lead a healthy lifestyle?	[話題] 健康・ライフスタイル [機能] 相手も知っていると思われる情報を伝える/相手が説明したものの効果に懐疑的であることを示す [文法] 1) 文型の拡張 2) 主語の拡張 [表現] 話す[発表], 書く, スピーチ	知			○	○	9	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 発表原稿 文法ワークブックなどの提出物 パフォーマンスの内容や態度
		Unit2 Steps we can take to Zero Hunger	[話題] 貧困・飢餓 [機能] 目上の相手に丁寧に聞き返し、関連した話題に転換する [文法] 1) 文型の拡張 2) 目的語・説明語句の拡張 [表現] 話す[発表], 書く, スピーチ	知			○	○		
5	フードバンクへの寄付に適した食品について、描写型のパラグラフを書くことができる。 描写型の文章のキーワードを整理し、言い換えをしながら要約文を書くことができる。	TL1 Donating the right kind of food	[話題] 貧困と健康問題 [機能] 描写型のパラグラフを書く/言い換えながら要約文を書く [文法] なし [表現] 書く, ディスカッション	知	○			○	9	
		Unit3 What are good and bad sides of urbanization?	[話題] 都市化の問題 [機能] 特に焦点を当てて説明する/相手の発言をやわらかく否定する [文法] 1) 修飾による拡張 2) 名詞の説明 [表現] 話す[やり取り], 書く	知	○			○	9	
中間考査										
6	久しぶりに会った相手に言葉をかけたり、話題にさらに論点を加えたりする方法を学ぶ。 都市問題について聞いた情報をもとに説明することができたり、都市問題を解決する方法について議論したりすることができる。 自分の住む地域の自治体に要望書を書くことができる。 修飾による拡張や名詞の説明の仕方について学び、正しく使うことができる。	Unit4 Is your city sustainable enough?	[話題] 持続可能な都市 [機能] 久しぶりに会った相手に言葉をかける/話題にさらに論点を加える [文法] 1) 修飾による拡張 2) 動詞句の説明, 文の説明 [表現] 話す[やり取り], 書く	知	○			○	9	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 発表原稿 文法ワークブックなどの提出物 パフォーマンスの内容や態度
		Unit5 Which should get more priority: culture or the environment?	[話題] 環境保護と文化 [機能] 新しい話題を切り出す/発言の意図や感情とともに情報を伝える [文法] 時を表す表現 [表現] 話す[やり取り], 書く	知			○	○		
8・9	大都市で起きている問題について、問題解決型のパラグラフを書くことができる。 問題解決型の文章のキーワードを整理し、言い換えをしながら要約文を書くことができる。	TL2 Well-managed city for the future	[話題] 都市化の問題と解決策 [機能] 問題解決型のパラグラフを書く/言い換えながら要約文を書く [文法] なし [表現] 話す[やり取り], 書く, スピーチ	知	○				8	
		Unit6 How to live a plastic-free life	[話題] プラスチックごみ問題 [機能] 不思議に思っていることを伝える/相手の意見への強い同意を伝える [文法] 受動態 [表現] 話す[やり取り], 書く	知	○			○		
期末考査										

後期学習指導計画												
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価の 観点	領域					評価 項目 数	主な評価規準 (評価方法)	
					聞	読	取	発	書			
10	目上の相手から話を聞き出し、自分の率直な思いを伝えることができる。 NGOの活動について情報を共有しながら議論したり、長めの意見を述べたりすることができる。 海外の国際機関で働きたいかどうかについて意見文を書くことができる。	Unit7 Helping others at home and abroad	[話題] NGO活動と共生 [機能] 目上の相手から話を聞き出す/自分の率直な思いを伝える [文法] 助動詞および仮定法 [表現] 話す[発表], 書く	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	7	・ワークシート ・発表原稿 ・文法ワークブックなどの提出物 ・パフォーマンスの内容や態度	
	環境を助けるためにできる簡単な方法について、原因・結果型のパラグラフを書くことができる。 原因・結果型の文章のキーワードを整理し、言い換えをしながら要約文を書くことができる。	TL3 Thinking globally, acting locally	[話題] 環境保護のためにできること [機能] 原因・結果型のパラグラフを書く [文法] なし [表現] 話す[発表], 書く	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○			8
11	言いにくいことを切り出したり、相手に尋ねづらい質問を切り出したることができる。 ジェンダー平等について聞いた情報をもとに説明することができる。 女性のクォータ制が必要かどうかについて議論することができる。 海外の大学への志望理由書を書くことができる。	Unit8 Challenges to equality	[話題] ジェンダー平等 [機能] 言いにくいことを切り出す/相手に尋ねづらい質問を切り出す [文法] 比較 [表現] 話す[発表], 書く	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8		
12	関心のあるチャリティに関して、比較・対比型のパラグラフを書くことができる。 比較・対比型の文章のキーワードを整理し、言い換えをしながら要約文を書くことができる。	TL4 The growing role of charities	[話題] チャリティ活動 [機能] 比較・対比型のパラグラフを書く [文法] なし [表現] 話す[やり取り], 書く	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8		
中間考査												
1	相手の発言に羨望の気持ちを伝え、相手の言ったことに同意することができる。 地産地消の利点について議論することができる。 地産地消の利点について長めの意見を述べるすることができる。 地産地消について意見文を書くことができる。	Unit9 Produce locally, consume locally	[話題] 地産地消 [機能] 相手の発言に羨望の気持ちを伝える/相手の言ったことに同意する [文法] 強調・倒置・省略・話法など [表現] 話す[ディベート], 書く	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8	・ワークシート ・発表原稿 ・文法ワークブックなどの提出物 ・パフォーマンスの内容や態度	
	相手の所有物に言及し、話題のきっかけを示す 発言内容の有効性を限定する。 シェアリングエコノミーについて聞いた情報をもとに説明したり、事例をもとに議論したりできる。 学校で始めてほしいシェアリングサービスについての要望書を書くことができる。 否定について学び、コミュニケーションの中で適切に使うことができる。	Unit10 Sharing as one way to create new value	[話題] シェアリングエコノミー [機能] 相手の所有物に言及し、話題のきっかけを示す/発言内容の有効性を限定する [文法] 否定 [表現] 話す[発表] 書く プレゼンテーション	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○			7
3	都市や地方での生活の利点について、3パラグラフの意見文を書くことができる。 3パラグラフの文章のキーワードを整理し、言い換えをしながら要約文を書くことができる。	TL5 Community living, community thriving	[話題] 都市・地方での生活 [機能] 3パラグラフの意見文を書く/言い換えながら要約文を書く [文法] なし [表現] 話す[やり取り], 書く	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	6		
期末考査												

評価の観点	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
知識・技能	○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。 ○外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。				
思考・判断・表現	○場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。 ○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。				
主体的に学習に取り組む態度	○外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。 ○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。				

評価の方法	上記の観点から評価規準に従い、以下の評価対象などを総合的に評価する。普通科と理数科の評価方法は違います。 【評価対象】 (a) 授業中の活動への取り組み状況 (b) 小テスト・定期考査等のペーパーテスト (c) スピーチ・プレゼンテーション・ディベート等のパフォーマンステスト (d) ノート・ワークブック・レポート等の提出物
-------	--

担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)	・英語でコミュニケーションをする時に大切なことは、積極的な姿勢を持ち続けることです。間違いを恐れず、間違いから学ぶ気持ちを持って表現しましょう。 ・より円滑にコミュニケーションができるよう、単語や表現を覚え、文法や言葉の働きを学びましょう。そのためには、できるだけたくさんのお話を吸収しようという意欲と反復練習が大切です。 ・文法の授業では、予習、復習を怠らぬようにしましょう。予習では参考書を活用しましょう。 ・学んだ英語を実際に書いたり話したりする機会を大切に、クラスメイトとたくさんコミュニケーションをとることによって英語を身につけましょう。
--	---

単位数	2	学科・学年・学級	普通科 2年A～G組
教科書	家庭基礎（自立・共生・創造）東京書籍	副教材等	なし

1 学習の到達目標

(1)人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活・環境などについて，生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付ける。
 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して課題を解決する力を身に付ける。
 (3)様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，地域社会に参画しようとするとともに，自分や家庭，地域の生活の充実に向上を図ろうとする実践的な態度を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	家庭科の学び方 ホームプロジェクト 第1章 生涯を見通す	家庭科の学び方 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	・自立した生活を営むために，生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・家庭や地域の生活を創造できるよう，仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。	ワークシート レポート 授業態度
	5	第2章 人生をつくる 第3章 子どもと共に育つ	1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 これからの保育環境	・命に対する責任や社会の一員として次世代を育む責任を持つために性と生殖に関する健康について理解する。 ・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために，子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。	
前期	6	第6章 食生活をつくる	1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食生活の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎	・よりよい食習慣を身につけ，生涯を健康に過ごすために，食生活の課題や食事の意義などを理解する。 ・栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について，科学的な理解を深める。 ・食品の選び方，食中毒や食物アレルギー，安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。 ・自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために，バランスのよい食事を理解する。 ・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につける。 ・調理実習①ミートソースパスタ	ワークシート レポート 授業態度 考査
	7			・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために，調理や加工によりおいしさが変化することを化学的に捉える。	
	8				
	9			前期期末考査	
後期	10		6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	・世界の食文化に関心を持ち，私たちの食生活への影響について理解する。 ・食生活を持続可能にできるようになるために，情報を適切に判断し，広い視野で食生活について考える。	ワークシート レポート
後期	11	第7章 衣生活をつくる	1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 衣生活の文化と知恵 5 これからの衣生活	・私たちが被服を着用するに至った，社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために，被服の材料や性能，加工について科学的に理解する。 ・被服実習（基礎縫い…ボタン付け・カギホック付け お弁当袋の製作…ミシン縫い・手縫い） ・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために，資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。	完成作品 授業態度

	第6章 食生活をつくる	5 調理の基礎	調理実習②麻婆豆腐	ワークシート レポート 完成作品 授業態度
12	第4章 超高齢社会を共に 生きる ホームプロジェ クトについて	1 超高齢・大衆長寿社会 の到来 2 高齢者の心身の特徴 3 これからの超高齢社会	・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者が生きがいをもち生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。 ・超高齢社会の課題を踏まえて、自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考え、行動しようとする。	
月		学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
1	第9章 経済生活を営む	1情報の収集・比較と意思 決定 2購入・支払いのルールと 方法 3消費者の権利と責任	・よりよい意思決定ができるよう、消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。	ワークシート レポート 授業態度
2	第6章 食生活をつくる	5 調理の基礎	調理実習③肉じゃが	考査
3	第8章 住生活をつくる ホームプロジェ クトの発表	安全で快適な住生活の計 画 学年末考査	・防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。	

3 評価の観点

知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係わる技術を身に付けている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

4 評価の方法

- ・知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。
- ・ワークシート、レポート、完成作品、考査、授業態度など

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

- ・家庭科は、家庭生活に必要な知識や技能を身につけるとともに、暮らしと社会の課題を結び付けて考え、新しい価値観や行動を生み出すことを目指します。環境や社会、経済について総合的に考え、持続可能な社会への課題と向き合しましょう。
- ・家庭科の学習を通して、様々な文化や考え方、生き方に接し、より柔軟で視野の広い考えを身につけることを期待しています。

令和8年度 スーパーサイエンス「SS-国語α」 シラバス

単位数	4	学科・学年・学級	普通科・2学年・A組・SSHコース
教科書	1 「精選 論理国語」(数研出版) 2 「文学国語」(数研出版) 3 「古典探究 古文編」(数研出版) 4 「古典探究 漢文編」(数研出版)	副教材等	1 「新訂 総合国語便覧」(第一学習社) 2 「入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500」(いづな書店) 3 「新演習 現代文アチーブ3」(桐原書店) 4 「体系古典文法」(数研出版) 5 「体系漢文」(数研出版) 6 「重要古文単語315」(桐原書店) 7 「体系漢文準拠ノート」(数研出版) 8 「錬成古典(古文・漢文)」(尚文出版)

1 学習の到達目標

<p>○「現代の国語」及び「言語文化」により育成された資質・能力を基盤とし、主として「思考力・判断力・表現力等」の創造的・論理的思考の側面の力を育成する科目として、実社会において必要になる、論理的に書いたり批判的に読んだりする資質・能力を育成する。</p> <p>●「現代の国語」及び「言語文化」により育成された資質・能力を基盤とし、主として「思考力・判断力・表現力等」の感性・情緒の側面の力を育成する科目として、深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力を育成する。</p> <p>◇◆生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につける。</p> <p>◇◆古典を通して先人のものの見方に触れ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>

2 学習の計画

※学習項目の○は論理国語、●は文学国語、◇は古文、◆は漢文を表す。

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。[B(1)エ]	具体と抽象	○手の変幻	・文章中の抽象的な表現の内容を踏まえ、筆者の「芸術」についての考え方に対する自分の考えを述べる。 ・逆説的な表現の内容を理解する。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・漢字テスト ・課題 ・定期考査
5	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。[A(1)イ]	歌物語	◇鳥飼の院(大和物語)	・「あさみどり……」の歌について現代語訳し、この歌が「鳥飼」という題の歌であると言えるのはどうしてか、説明する。	
5	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。[B(1)ア]	文学の扉	●山月記	・「二間ばかり積みてぞおきたりけ ・本文全体から、虎になる前の李徴の人柄を箇条書きで整理し、文章でまとめる。 ・李徴自身は、自分が虎になったのはなぜだと考えているかをまとめる。 ・作者がこの作品を人間が虎になるという設定にしたのはなぜかを考える。	
6	「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。[B(1)エ]	近代と現代の視点	○科学・技術の歴史の中での社会	・科学・技術の歴史を読み取り、「『道具』としての意味合いを持った科学」の内容を的確にとらえる。 ・科学と社会との関わり方について自分の考えを深める。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・漢字テスト ・課題 ・定期考査
	「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。[A(1)]	思想	◆『孟子』「性善」 ◆『荀子』「性悪」 ◆『老子』「無用之用」	・儒家(孔子・孟子・荀子)と道家(老子・荘子)では、それぞれ人間が生きていくうえでどのようなことに重きを置いているか、考える。	
7	「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。[A(1)オ]	物語	◇『源氏物語』 「光源氏誕生」	・帝が「桐壺の更衣」を寵愛することに対し、まわりの人々はどう思ったか、説明する。 ・「一の皇子」と「玉の男皇子」とに対する帝の接し方の違いを説明する。 ・帝・桐壺の更衣・弘徽殿の女御の人物像について考える。	
8					
9					

10	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。[A(1)イ]	史伝	◆『史記』 「鴻門之会」 ～剣舞～ ～頭髮上指す～	・項羽が范増の指示に応じなかった理由を考える。 ・樊噲の演説を聞いてそれに答えなかった項羽の心情を考える。 ・劉邦が脱出した後の項羽と范増の心情を、劉邦からの献上品に対するそれぞれの態度を踏まえてまとめる。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・漢字テスト ・課題 ・定期考査
11	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。[A(1)イ]	物語	◇『源氏物語』 「小柴垣のもと」	・「生ひ立たむ……」と「初草の……」の歌について、「若草」「露」「初草」が何をたとえているか、それぞれの歌は何を訴えようとしているか、説明する。 ・光源氏は「女子」のどこに興味をひかれているのか、説明する。	
11	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。[(2)イ]	大正の小説	●こころ	・「私(=先生)」のKに対する心情を整理する。 ・Kが用いた「覚悟」という言葉を「私」はどのように解釈しているかを時間の経過に従ってまとめる。 ・「覚悟」という言葉をKはどのような意味で用いたのかを考える。	
12			中間考査		
1	「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。[B(1)イ]	大正の小説	●こころ	・Kの自殺を発見したときの「私」の心情と行動はどのようなものだったかをまとめる。 ・Kの手紙の内容をまとめ、Kの自殺の理由を考える。 ・作品の主題を話し合う。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・漢字テスト ・課題 ・定期考査
1	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。[A(1)イ]	史伝	◆『史記』 「四面楚歌」	・項羽は敗戦の原因をどのように考えているか、詩の一句目と二句目の表現を踏まえて考える。	
2	「書くこと」において、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している。[A(1)オ]	考えの表出	○日本語は非論理的か	・筆者が言葉の使い方について「論理的」「非論理的」と表現する内容を理解する。 ・指定の段落構成に従い、筆者が提示する問題点を踏まえつつ、具体例や自分の意見を論述する。	
3			期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	<p>○実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。</p> <p>●生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。</p> <p>◇◆生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。</p>
思考・判断・表現	<p>○「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを上げたり深めたりしている。</p> <p>●「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを上げたり深めたりしている。</p> <p>◇◆「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを上げたり深めたりしている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>○●言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを上げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</p> <p>◇◆言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを上げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</p>

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

- (1) 「SS-国語α」とは、「論理国語」「文学国語」「古典探究古文」「古典探究漢文」という4つの教科書の学習事項を扱う、本校独自の科目です。
- (2) 年間を通して10回漢字テストを実施します。

令和8年度 理数「理数探究」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・2年次・A組（SSHコース）
教科書	理数探究基礎 104数研 理数702	副教材等	各種資料等

1 学習の到達目標

様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けるようにする。

(2)多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。

(3)様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4		1 ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野の基本的な実験操作、理論を学ぶ。 ・各自の課題研究に向けて、実験や講義を受講し実験のデータ処理やその表現方法を学ぶ。 ・マンダラートを使用し、興味・関心のあるワードを調べる。そのワードから問いを作成し、課題研究のテーマにつなげていく。 ・研究テーマについて仮説を設定する。 ・仮説を検証するための実験方法の開発・予備実験 	レポート 発表ポスター プレゼンテーション ・発表資料 ・質疑応答 ・研究内容 実験ノート 論文
	5		2 基礎実習講座		
			3 データ処理講座		
			4 研究準備 (1)課題研究のテーマ設定 (2)仮説の設定 (3)実験方法の検討		
	6		5 課題研究実施		
	9		ループリック評価とAI評価（仮説の再設定①）	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉大学高校生理科研究発表会（課題研究の成果発表会） 	
後期	12		ループリック評価とAI評価（仮説の再設定②）	<ul style="list-style-type: none"> ・CCSS Fair（課題研究の成果発表と振り返り） 	
	3		論文作成	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究のまとめとして論文を作成する。 ・高校生課題研究発表会（課題研究の最終発表会） 	

3 評価の観点

知識・技能	科学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
思考・判断・表現	科学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	科学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

ループリック評価を使用し、自分の学習してきた成果や能力の向上を自分で確認しながら研究を進めていきます。また、研究と普段の学習が常にリンクしている事を意識しながら研究を進めていきます。

この授業は、深く探究する姿勢や論理的な思考力の向上と、英語でのコミュニケーション能力の伸長も目標としています。試験はありませんが、その分、課題（報告書作成・提出を含む）やプレゼンテーションに取り組む姿勢が重視されます。多様な対象への関心を高め、意欲的かつ積極的に取り組んでください。

令和8年度 スーパーサイエンス「Advanced Natural Science」シラバス

単位数	1単位	学科・学年・学級	普通科・2年次・A組（SSHコース）
教科書	配付プリントによるテキスト	副教材等	ワークシート、各種資料等

1 学習の到達目標

科学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4		1 オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜講座を開催する。 ・この中で、科学的な見識を広め体系的に現象を捉える能力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立山周辺のテーマ別学習を鑑みて、学習内容の骨子を概観し確立する。
	5		2 課題研究講座 (1) テーマ設定講座 (2) スライド作成講座 (3) 研究倫理講座 (4) ポスター作成講座		
	8		3 野外実習基礎講座事前指導（生物） 4 野外実習基礎講座事前指導（地学） 5 SS-Science Camp II 事前指導（立山の成り立ち） (1) 地質 (2) 氷河地形 (3) 植生 (4) 山麓地域の湧水 (5) 歴史		
9	6 SS-Science Camp II 事後指導（立山周辺のテーマ別学習） (1) 学習テーマ設定 (2) 班編成 (3) 学習 (4) 発表	<ul style="list-style-type: none"> ・SS-Science Camp IIの事後指導として、「立山周辺」の科学的・地理的調べ学習を展開する。 ・班別にテーマを細分化し、深く学習させる。 ・発表を通して情報を共有化するとともに、個々の生徒のプレゼンテーション能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路適性検査を有効に活用する。 		
後期	11		7 英語プレゼンテーション研修 (1) 課題研究の要旨を英語で作成する。 (2) 英語で作成した要旨をもとにオーラルプレゼンテーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・英語での発表要旨の作成およびプレゼンテーション、質疑応答を通して、英語でのコミュニケーションに対する心理的障壁を軽減する。 ・英語科教諭、サイエンスアシスタント、留学生TAの指導も受け、的確なコミュニケーション能力の育成を図る。 ・発表要旨、プレゼンテーション、質疑の様子を総合的に評価する。 ・英語プレゼンテーション実習（自分の課題研究の英語によるオーラルプレゼンテーションの発表と見学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者として、発表内容を的確に伝えられること。 ・聞き手として、発表内容を的確に理解し、質問を構成できること。 ・質疑応答がnatural conversationの雰囲気、お互いに簡易かつ流暢な英語で行えるように努めること。

3 評価の観点

知識・技能	科学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
思考・判断・表現	科学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	科学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

この授業はSS-Science Camp II、理数探究、外部機関連携講座との関連を考慮しながら実施します。また、広い視野に立った物事の理解と、英語でのコミュニケーション能力の伸長を目標としています。試験はありませんが、その分、課題（報告書作成・提出を含む）やプレゼンテーションに取り組む姿勢が重視されます。多様な対象への関心を高め、意欲的かつ積極的に取り組んでください。

令和8年度 国語科「理数国語α」 シラバス

単位数	4	学科・学年・学期	理数科・2学年・H組
教科書	1 「精選 論理国語」(数研出版) 2 「文学国語」(数研出版) 3 「古典探究 古文編」(数研出版) 4 「古典探究 漢文編」(数研出版)	副教材等	1 「新訂 総合国語便覧」(第一学習社) 2 「入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500」(いづな書店) 3 「新演習 現代文アチーブ3」(桐原書店) 4 「体系古典文法」(数研出版) 5 「体系漢文」(数研出版) 6 「重要古文単語315」(桐原書店) 7 「体系漢文準拠ノート」(数研出版) 8 「錬成古典(古文・漢文)」(尚文出版)

1 学習の到達目標

<p>○「現代の国語」及び「言語文化」により育成された資質・能力を基盤とし、主として「思考力・判断力・表現力等」の創造的・論理的思考の側面の力を育成する科目として、実社会において必要になる、論理的に書いたり批判的に読んだりする資質・能力を育成する。</p> <p>●「現代の国語」及び「言語文化」により育成された資質・能力を基盤とし、主として「思考力・判断力・表現力等」の感性・情緒の側面の力を育成する科目として、深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力を育成する。</p> <p>◇◆生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につける。</p> <p>◇◆古典を通して先人のものの見方に触れ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

2 学習の計画

※学習項目の○は論理国語、●は文学国語、◇は古文、◆は漢文を表す。

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評	具体と抽象	○手の変幻	・文章中の抽象的な表現の内容を踏まえ、筆者の「芸術」についての考え方に対する自分の考えを述べる。 ・逆説的な表現の内容を理解する。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・漢字テスト ・課題 ・定期考査
5	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。[B(1)ア]	歌物語 文学の扉	◇鳥飼の院(大和物語) ●山月記	・「あさみどり……」の歌について現代語訳し、この歌が「鳥飼」という題の歌であると言えるのはどうしてか、説明する。 ・「二間ばかり積みてぞおきたりけ ・本文全体から、虎になる前の李徴の人柄を箇条書きで整理し、文章でまとめる。 ・李徴自身は、自分が虎になったのはなぜだと考えているかをまとめる。 ・作者がこの作品を人間が虎になるという設定にしたのはなぜかを考える。	
6	「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。[B(1)エ]	近代と現代の視点	○科学・技術の歴史の中での社会	・科学・技術の歴史を読み取り、「『道具』としての意味合いを持った科学」の内容を的確にとらえる。 ・科学と社会との関わり方について自分の考えを深める。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・漢字テスト ・課題 ・定期考査
7	「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。[A(1)オ]	思想	◆『孟子』「性善」 ◆『荀子』「性悪」 ◆『老子』「無用之用」	・儒家(孔子・孟子・荀子)と道家(老子・荘子)では、それぞれ人間が生きていくうえでどのようなことに重きを置いているか、考える。	
8	「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。[A(1)オ]	物語	◇『源氏物語』 「光源氏誕生」	・帝が「桐壺の更衣」を寵愛することに対し、まわりの人々はどう思ったか、説明する。 ・「一の皇子」と「玉の男皇子」とに対する帝の接し方の違いを説明する。 ・帝・桐壺の更衣・弘徽殿の女御の人物像について考える。	
9			期末考査		

10	読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容的に捉えている。 [A(1)イ]	史伝	◆『史記』 「鴻門之会」 ～剣舞～ ～頭髮上指す～	・項羽が范増の指示に応じなかった理由を考える。 ・樊噲の演説を聞いてそれに答えなかった項羽の心情を考える。 ・劉邦が脱出した後の項羽と范増の心情を、劉邦からの献上品に対するそれぞれの態度を踏まえてまとめる。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・漢字テスト ・課題 ・定期考査
11	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容的に捉えている。 [A(1)イ]	物語	◇『源氏物語』 「小柴垣のもと」	・「生ひ立たむ……」と「初草の……」の歌について、「若草」「露」「初草」が何をたとえているか、それぞれの歌は何を訴えようとしているか、説明する。 ・光源氏は「女子」のどこに興味をひかれているのか、説明する。 ・「私 (=先生)」のKに対する心情を整理する。 ・Kが用いた「覚悟」という言葉を「私」はどのように解釈しているかを時間の経過に従ってまとめる。 ・「覚悟」という言葉をKはどのような意味で用いたのかを考える。	
12		大正の小説	●こころ	中間考査	
1	「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 [B(1)イ]	大正の小説	●こころ	・Kの自殺を発見したときの「私」の心情と行動はどのようなものだったかをまとめる。 ・Kの手紙の内容をまとめ、Kの自殺の理由を考える。 ・作品の主題を話し合う。	・発表 ・授業に参加する積極性 ・漢字テスト ・課題 ・定期考査
2	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容的に捉えている。 [A(1)イ]	史伝	◆『史記』 「四面楚歌」	・項羽は敗戦の原因をどのように考えているか、詩の一句目と二句目の表現を踏まえて考える。	
3	「書くこと」において、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している。 [A(1)オ]	考えの表出	○日本語は非論理的か	・筆者が言葉の使い方について「論理的」「非論理的」と表現する内容を理解する。 ・指定の段落構成に従い、筆者が提示する問題点を踏まえつつ、具体例や自分の意見を論述する。	
3			期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	<p>○実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。</p> <p>●生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。</p> <p>◇◆生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。</p>
思考・判断・表現	<p>○「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを上げたり深めたりしている。</p> <p>●「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを上げたり深めたりしている。</p> <p>◇◆「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを上げたり深めたりしている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>○●言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを上げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</p> <p>◇◆言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを上げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</p>

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

- (1) 「理数国語α」とは、「論理国語」「文学国語」「古典探究古文」「古典探究漢文」という4つの教科書の学習事項を扱う、本校独自の科目です。
- (2) 年間を通して10回漢字テストを実施します。

令和8年度 理数科 「理数数学Ⅱ」 シラバス

単位数	6単位	学科・学年・学級	理数科 2年次 H組
教科書	数学Ⅱ（数研出版） 数学B（数研出版） 数学Ⅲ（数研出版） 数学C（数研出版）	副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C [ベクトル] 数学Ⅲ+C [複素数平面 式と曲線] （数研出版）

1 学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域	1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域	<ul style="list-style-type: none"> 座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度（主） 質問に対する応答（主・思・知） 授業中の演習（主・思・知） 小テスト（主・思・知） 課題（主・思・知） 定期考査（主・思・知） 提出物（主）
	5	数学B 第1章 数列 第1節 数列とその和	1 数列 2 等差数列とその和 3 等比数列とその和 4 和の記号Σ 5 階差数列 6 いろいろな数列の和	<ul style="list-style-type: none"> 等差数列、等比数列などの簡単な数列について、一般項や第n項までの和を求めたり、記号Σの意味を理解してそれを用いたりできるとともに、事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察する。 	
	6		中間考査		
後期	7	数学Ⅱ 第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理	1 一般角と弧度法 2 三角関数 3 三角関数の性質 4 三角関数のグラフ 5 三角関数の応用 6 加法定理 7 加法定理の応用 8 三角関数の合成	<ul style="list-style-type: none"> 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度（主） 質問に対する応答（主・思・知） 授業中の演習（主・思・知） 小テスト（主・思・知） 課題（主・思・知）
	9	数学B 第1章 数列 第2節 数学的帰納法	7 漸化式と数列 8 数学的帰納法	<ul style="list-style-type: none"> 数列の考え方をもとにして、漸化式と数学的帰納法について理解するとともに、事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用する。更に、自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較して多面的に考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（主・思・知） 提出物（主）
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等		
後期	10	数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数	1 指数の拡張 2 指数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数	・指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度 (主) 質問に対する応答 (主・思・知) 授業中の演習 (主・思・知) 小テスト (主・思・知) 課題 (主・思・知) 		
	11	数学B 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散 3 確率変数の変換 4 確率変数の和と期待値 5 独立な確率変数と期待値・分散	・確率変数とその分布の意味を理解できるようにするとともに、確率変数の期待値、分散及び標準偏差が確率分布のどのような特徴を示しているかを理解する。また、二項分布、正規分布について理解し、日常の事象や社会の事象の考察に活用できるようにする。		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 (主・思・知) 提出物 (主) 	
	12		6 二項分布 7 正規分布 中間考査				
	1	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用	1 微分係数 2 導関数 3 接線 4 関数の値の変化 5 最大値・最小値 6 関数のグラフと方程式・不等式	・微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ・導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。 ・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。		<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度 (主) 質問に対する応答 (主・思・知) 授業中の演習 (主・思・知) 小テスト (主・思・知) 課題 (主・思・知) 	
		第3節 積分法	7 不定積分 8 定積分 9 面積				<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 (主・思・知) 提出物 (主)
	2	数学B 第2章 統計的な推測 第2節 統計的な推測	8 母集団と標本 9 標本平均とその分布 10 推定 11 仮説検定	・確率の理論を統計に応用し、正規分布を用いた区間推定と仮説検定の方法を理解する。更に、母集団の特徴や傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする。			
	3	数学C 第3章 複素数平面	1 複素数平面 2 複素数の極形式と乗法、除法 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形 期末考査	・複素数平面を用いて複素数を図表示し、複素数の実数倍、和、差、積及び商の幾何学的な意味を理解できるようにし、図形の移動などと関連付けて複素数の演算などの意味を考察する力を養う。			

3 評価の観点

知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を系統的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	事象を数学的に捉え、論理的・統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し、数学を活用使用とする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、事象を数学的に探究しようとする態度を養う。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

数学は単純なことの積み上げです。あるステップから次のステップに上がることはそれほど難しくありません。しかし、それらが累々と積み上がって高度な体系になります。したがって、ある段階でのつまずきや知識の欠落が、次のステップに進むことを妨げる要因となるのです。そのため、毎日の予習・復習、特に復習が重要です。また、授業の内容を理解した気になっていたが、いざ問題を前にした際に全く対処できないということも起こりがちです。理解すべき内容を的確に自力で表現することができて初めて理解できたといえます。普段の学習では、授業の内容が理解できたと思えたら、その内容を自らの言葉で書き、話すなどして表現することを励行してください。

令和8年度 理数「理数物理」シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	理数科・2年次・H組
教科書	総合物理1（数研出版）・総合物理2（数研出版）	副教材等	セミナー 物理基礎・物理（第一学習社）

1 学習の到達目標

物理的な事物・現象についての観察，実験などを行い，自然に対する関心や探究心を高め，物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに，物理学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め，科学的な自然観を育成する。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	運動の表し方	・様々な運動	<ul style="list-style-type: none"> ・物体の変位や速度などの表し方について，直線運動を中心に理解する。直線上を運動する物体の合成速度や相対速度についても扱う。 ・直線運動を中心に物体の加速度を理解する。 ・落下運動について調べ，その特徴を理解する。 ・自由落下が等加速度運動であることを，実験的に確認する。 	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
	5	原子	・様々な物理現象とエネルギーの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線医学総合研究所への校外学習の事前学習として，基礎的な知識を理解する。 	
	6	運動の法則	・様々な運動	<ul style="list-style-type: none"> ・物体にはたらく力の合成・分解をベクトルを用いて扱い，つりあいについて理解を深める。 ・作用・反作用の法則を扱い，つりあう2力との違いを理解する。 ・運動方程式の立て方について学習し，斜面上の運動，連結した物体の運動など，様々な運動状態における運動方程式の立て方を理解する。 ・力のモーメント，剛体のつりあい，平行な2力の合成，偶力，重心などを学習し，剛体にはたらく力のはたらきについて理解する。 	
			中間考査		
	7	仕事と力学的エネルギー	・物体の運動とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事，仕事の原理，仕事率を学習し，物理における仕事について理解する。 ・運動エネルギー，位置エネルギー，保存力を学習し，運動エネルギーや位置エネルギーの変化について，式を用いて理解する。 ・力学的エネルギーの保存について理解する。 	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
	9	熱と気体	・様々な物理現象とエネルギーの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・熱運動，セルシウス温度，絶対温度を学習し，温度について理解する。 ・熱と熱量を学習したのち，熱平衡，潜熱，比熱，熱容量，熱量の保存，熱膨張について理解する。 ・ボイルの法則やシャルルの法則などの気体に関する法則を学習し，理想気体の状態方程式について理解する。 ・気体の内部エネルギー，気体の体積変化に伴う仕事を学習し，熱力学の第1法則を理解する。 ・定積変化や定圧変化などの気体の状態変化を学習し，各状態変化で熱力学の第1法則を適用する。 	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	波の性質	・様々な物理現象とエネルギーの利用	・正弦波と波、振幅、波長、周期、振動数、媒質の振動など、波の要素について学習する。 ・横波、縦波の特徴について理解する。 ・重ねあわせの原理、波の独立性、定常波、波の反射、固定端反射、自由端反射について学習する。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
	11	音	・波	・音の速さ、音の3要素、音の反射、うなりなど、音波の性質や伝わり方について理解する。 ・弦の固有振動、気柱の共鳴などについて学習する。 ・気柱の共鳴を利用して、おんさの振動数が気柱の長さから求められることを確認する。 ・ドブラー効果について学習する。	
	12		中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	光	・波	・光の速さを学習し、反射、屈折、全反射などの光の進み方について理解する。 ・光の分散、散乱、偏光などについて理解する。 ・凸レンズや凹レンズの基本的な性質を学習し、各レンズによる実像、虚像のでき方の仕組みについて、レンズの式や倍率の式を用いて理解する。 ・ヤングの実験や回折格子による光の干渉を学習し、薄膜による干渉、くさび形空気層による干渉などの干渉条件を理解する。	授業態度 発言内容 定期考査 実験レポート
	2				
	3		期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	物理学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	物理的な事物・現象に関して、観察、実験などを行い科学的に探究する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	自然に対する関心を高め、事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、技能、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

- ・授業内容がわかるだけではテストで点数は取れない。授業中の演習だけでは不十分であるから、問題集の導入問題、基本例題、基本問題は授業後毎回演習しておくこと。考査前のみの演習では不十分である。
- ・疑問に思ったことはすぐに解決を。質問は大歓迎。
- ・物理の学習内容を身近な現象に結びつけるように意識すると、より理解を深めることができる。

令和8年度 理数「理数化学」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	理数科・2年・H組
教科書	化学基礎academia (実教出版) 化学academia (実教出版)	副教材等	エクセル化学 [総合版] (実教出版) サイエンスビュー化学総合資料 (実教出版)

1 学習の到達目標

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
前期	4	第IV章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴	①特徴と分類 ②構造式の決定	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の特徴と分類について理解する。 ・有機化合物の構造式を決定するまでの過程を学習し、その原理を理解する。 ・飽和炭化水素の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・不飽和炭化水素の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・アルコール、エーテルの性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・アルデヒド、ケトンの性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・カルボン酸、エステルの性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・油脂、セッケンの性質を、その構造と関連付けて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査 	
		第2節 脂肪族炭化水素	①飽和炭化水素 ②不飽和炭化水素			
	5	第3節 酸素を含む脂肪族化合物	①アルコールとエーテル ②アルデヒドとケトン ③カルボン酸とエステル ④油脂とセッケン			
	6		中間考査			
	7	第4節 芳香族化合物	①芳香族炭化水素 ②酸素を含む芳香族化合物 ③窒素を含む芳香族化合物 ④芳香族化合物の分離			<ul style="list-style-type: none"> ・芳香族炭化水素の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・フェノール類、芳香族カルボン酸の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・芳香族アミン、アゾ化合物の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・芳香族化合物の分離を化合物の性質にもとづいて理解する。
	8	第I章 物質の状態 第1節 物質の状態変化	①物質の三態とその変化 ②気体分子の熱運動と圧力 ③飽和蒸気圧と蒸気圧曲線	<ul style="list-style-type: none"> ・物質の三態の変化を復習し、その変化に伴う熱の出入りを理解する。 ・物質の沸点・融点を分子間力や化学結合と関連付けて理解する。 ・気体の圧力が気体分子の熱運動と密接に関係することを理解する。 ・状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解する。 		
	9	第3節 固体の構造	①化学結合と結晶の種類 ②金属結晶の構造 ③イオン結晶の構造 ④共有結合の結晶の構造 ⑤分子結晶の構造 ⑥非晶質 期末考査		<ul style="list-style-type: none"> ・化学結合と結晶の性質について、復習する。 ・金属結晶の構造について理解する。 ・イオン結晶の構造について理解する。 ・共有結合の結晶の構造について理解する。 ・分子結晶の構造について理解する。 ・非晶質について理解する。 	

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2節 気体の性質	①気体の法則 ②気体の状態方程式 ③理想気体と実在気体	・ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則をそれぞれ理解し、その応用を理解する。 ・気体の状態方程式を理解し、その応用を学習する。また、全圧と分圧を学習し、混合気体の平均分子量を理解する。 ・理想気体と実在気体との違いを理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
	11	第4節 溶液の性質	①溶解と溶液 ②希薄溶液の性質 ③コロイド	・溶解のしくみを理解し、固体および気体の溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。 ・凝固点降下、沸点上昇、浸透圧の定量的な取扱いを理解する。 ・コロイドを理解し、その溶液の性質を理解する。	
	12		中間考査		
	1	第II章 物質の変化と平衡 第3節 化学反応の速さ	①反応速度 ②化学反応の速さと濃度 ③化学反応の速さと温度 ④触媒	・反応速度が単位時間内に変化する物質の量で表されることを理解する。 ・反応速度と濃度との関係を理解する。 ・反応速度と温度との関係を理解する。 ・触媒の働きとその利用を理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
	2	第1節 化学反応と熱・光	①化学反応とエンタルピー変化 ②ヘスの法則 ③結合エネルギー ④化学反応と光 ⑤エントロピー	・化学反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差が熱の発生や吸収となって現れることを理解する。 ・ヘスの法則を理解する。 ・結合エネルギーを理解する。 ・化学反応には、光を放出・吸収するものがあることを理解する。 ・吸熱反応が自発的に進む要因について理解する。	
	3		期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価の方法

●下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。

(1)授業への取組

授業に対する姿勢、学習態度、化学への関心等で判断する。評価の観点のうち、特に主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。

(2)ノート(授業プリント)の記載内容

授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができていかなどを評価する。

(3)観察・実験等

観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。

(4)教科書・問題集の問題

各問題への取組、取り組んだ内容から評価する。

(5)定期考査

学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現に関する配分がもっとも大きい。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

- 1 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

単位数	2単位	学科・学年・学級	理数科 2年 H組
教科書	高等学校生物（第一学習社）	副教材等	ニューステージ 生物図表（浜島書店） セミナー生物（第一学習社）

1 学習の到達目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生物学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 生物や生物現象に関して、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 自然に対する関心を高め、事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1章 生物の進化	①生命の起源と細胞の進化 ②遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 ③進化のしくみ	生命が誕生したと考えられる場所について理解します。 シアノバクテリアの繁栄や真核生物の出現・繁栄が大気組成の変化と関わりがあることを見いだして理解します。 突然変異について理解します。 DNAの塩基配列の変化によってアミノ酸配列が変化するしくみを理解します。 交配実験の結果などの資料にもとづいて、連鎖している遺伝子の組み合わせは変化しうることを見いだして理解します。 一定の条件を満たす集団の遺伝子頻度は変化しないこと（ハーディー・ワインベルグの法則）を理解します。	実験等レポート 授業内提出物 前期中間考査
	5	第2章 生物の系統と進化	①生物の系統 ②人類の系統と進化 中間考査	種間に共通してみられるタンパク質のアミノ酸配列の違いにもとづいて系統関係を推定できることを見いだして理解します。 平均距離法を用いて系統樹を推定します。 原生生物、植物、菌類、動物の特徴を理解します。 霊長類および類人猿の形質の特徴を理解します。	
	6	第3章 細胞と分子	①生体物質と細胞 ②タンパク質の構造と性質	生体膜は、リン脂質二重層にさまざまなタンパク質がモザイク状に分布したものであることを理解します。 タンパク質は、アミノ酸がペプチド結合によって多数つながった物質であることを理解します。 タンパク質の一次構造、二次構造、三次構造、四次構造について理解する。 タンパク質の立体構造は、機能と密接に関連していることを理解します。	実験等レポート 授業内提出物 前期期末考査
	7		③生命現象とタンパク質	酵素反応の阻害には、競争的阻害と非競争的阻害があることを理解します。 チャンネルと輸送体との違いを理解します。 細胞膜に存在する3種類の受容体について、その特徴と情報伝達のしくみを、それぞれ理解します。	
	9		期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第4章 代謝	①代謝とエネルギー ②炭酸同化	代謝では、ATP、NADP ⁺ 、NAD ⁺ 、FADがエネルギーの受け渡しに関わることを理解します。 植物の葉緑体に含まれる光合成色素の種類と色について理解します。 緑葉に含まれる光合成色素を分離し、分離された色素の色とRf値から色素の種類を推測します。	実験等レポート 授業内提出物 後期中間考査
	11			③異化 呼吸の概要を示した資料にもとづいて、呼吸の過程におけるエネルギーの流れを見いだして理解します。 解糖系、クエン酸回路、電子伝達系の各過程について理解します。 呼吸商から呼吸基質を推定します。 アルコール発酵と乳酸発酵の違いを理解します。	
	12		中間考査		
1	1	第5章 遺伝情報とその発現	①DNAの複製	DNAは、2本のヌクレオチド鎖が互いに逆向きに結合した構造をとることを理解します。 DNA複製の際に働く各種酵素について理解します。 DNA合成酵素が作用するためにはプライマーが必要であることを理解します。 DNAの複製の際にはリーディング鎖とラギング鎖が生じることを理解します。	実験等レポート 授業内提出物 後期期末考査
				2	
			3	期末考査	

3 評価の観点

知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

授業内提出物、実験等レポートにより主体的に取り組む態度、知識・技能、思考・判断・表現を評価する。どの観点を評価するかは、授業内提出物や実験等レポートの種類による。
定期考査により知識・技能、思考・判断・表現を評価する。
評価材料をもとに観点別に評価を行い、それらを総合的に判断して最終評価を行う。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

教科書および問題集をよく読み、繰り返し解くことで、基礎学力の定着をはかること。
実験は積極的に取り組み、結果をきちんとまとめ、自分で考えたことや調べたことを記述したレポートを作成し提出してください。

令和8年度 理数 「理数地学」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	理数科・2年・H組（選択者）
教科書	啓林館 高等学校 地学	副教材等	センサー 地学 3rdEditon

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら、宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。また、地球や地球を取り巻く環境に対して目的意識をもって観察・実験を行い、地学的に探究する能力と態度を育てる。地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、地学的な見方や考え方を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1章 地球の概観	<ul style="list-style-type: none"> ・エラトステネスの測距法 ・地球内部の層構造 ・plate tectonics ・地震の発生機構 	重力の観測，地震波の観測，地殻熱流量の観測，地磁気の観測などから，地球内部の様子がわかることを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査
	5	第1節 重力で探る地球の内部 第2節 地震波で探る地球の内部 第3節 熱で探る地球の内部 第4節 地磁気で探る地球の内部			
	6	第3章 私たちの日本列島	日本周辺のプレート	日本に産する岩石や地層の記録から，日本列島の起源や成長の歴史について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査
	7	第1節 日本列島 第2節 日本列島の歴史	孤一海溝系としての日本列島 日本列島の地質構造 日本の起源（原生代～古生代初め） 日本列島の成長（古生代～新生代古第三紀） 日本列島の成立（新生代新第三紀） 第四紀の日本列島		
	9	第1章 太陽系の天体 第1節 地球の運動	地球の自転 地球の公転 太陽の動きと時刻・暦	太陽系の天体の運動と特徴について学ぶ。また，太陽系の中で唯一の恒星である太陽について学ぶ。	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等			
後期	10	第2節 惑星の運動	惑星の視運動	太陽系の天体の運動と特徴について学ぶ。また、太陽系の中で唯一の恒星である太陽について学ぶ。 遠く離れた恒星の性質について、恒星からの光を調べることで明らかにされてきたことを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査 			
		第3節 太陽系の天体	惑星の軌道運動					
		第4節 太陽	惑星の誕生・惑星の特徴					
	11		太陽の仕組み					
		第2章 恒星の性質と進化	星の明るさ・等級					
		第1節 恒星の光	恒星までの距離の測り方					
	12	第2節 恒星の性質とHR図	HR図・恒星の大きさ					
			中間考査					
		月	単元名			学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	第3節 恒星の誕生と進化	恒星の誕生・恒星の一生			恒星と星間物質の大集団である銀河系や遠くの銀河などの天体、宇宙の構造や膨張について学ぶ。また、それが天体観測技術の発達によって次第に可能になっていったことを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・実習レポート提出 ・定期考査 	
								第3章 銀河系と宇宙
第1節 銀河系				様々な銀河・銀河の分布				
2	第2節 銀河と宇宙	宇宙の大規模構造・ハッブルの法則						
					第2節 銀河と宇宙	宇宙の大規模構造・ハッブルの法則		
			期末考査					

3 評価の観点

知識・技能	地球や地球を取り巻く環境について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境に関する事物・事象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	実習の振り返りや発展的な内容の問いかけに粘り強く考え、根拠を持って自らの考えを示すことができる。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

視聴覚教材や情報機器の活用で教科書の内容を積極的に補完し、より豊かなイメージをもつことができますようにします。必要な事柄を要領良く記録してください。学習の計画及び評価方法等に変更が生じる場合は、口頭もしくは文書で案内します。

単位数	2	学科・学年・学級	理数科 2年H組
教科書	家庭基礎（自立・共生・創造）東京書籍	副教材等	なし

1 学習の到達目標

(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。
 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付ける。
 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付ける。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	家庭科の学び方 ホームプロジェクト 第1章 生涯を見通す	家庭科の学び方 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・家庭や地域の生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。	ワークシート レポート 授業態度
	5	第2章 人生をつくる 第3章 子どもと共に育つ	1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 これからの保育環境	・命に対する責任や社会の一員として次世代を育む責任を持つために性と生殖に関する健康について理解する。 ・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。	
中期	6	第6章 食生活をつくる	1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食生活の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎	・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義などを理解する。 ・栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。 ・食品の選び方、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。 ・自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、バランスのよい食事を理解する。 ・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につける。 ・調理実習①ミートソースパスタ	ワークシート レポート 授業態度 考査
	7			・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを化学的に捉える。	
	8				
	9			前期期末考査	
後期	10	第7章 衣生活をつくる	6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 衣生活の文化と知恵 5 これからの衣生活	・世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。 ・食生活を持続可能にできるようになるために、情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。 ・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。 ・被服実習（基礎縫い…ボタン付け・カギホック付け お弁当袋の製作…ミシン縫い・手縫い） ・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。	ワークシート レポート 完成作品 授業態度

	第6章 食生活をつくる	5 調理の基礎	調理実習②麻婆豆腐	ワークシート レポート 完成作品 授業態度
12	第4章 超高齢社会を共に生きる	1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢者の心身の特徴 3 これからの超高齢社会	・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。 ・超高齢社会の課題を踏まえて、自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考え、行動しようとする。	
	ホームプロジェクトについて			
月		学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
1	第9章 経済生活を営む	1情報の収集・比較と意思決定 2購入・支払いのルールと方法 3消費者の権利と責任	・よりよい意思決定ができるよう、消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。	ワークシート レポート 授業態度
2	第6章 食生活をつくる	5 調理の基礎	調理実習③肉じゃが	考査
3	第8章 住生活をつくる	安全で快適な住生活の計画	・防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。	
	ホームプロジェクトの発表	学年末考査		

3 評価の観点

知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係わる技術を身に付けている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

4 評価の方法

- ・知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。
- ・ワークシート、レポート、完成作品、考査、授業態度など

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

- ・家庭科は、家庭生活に必要な知識や技能を身につけるとともに、暮らしと社会の課題を結び付けて考え、新しい価値観や行動を生み出すことを目指します。環境や社会、経済について総合的に考え、持続可能な社会への課題と向き合いましょう。
- ・家庭科の学習を通して、様々な文化や考え方、生き方に接し、より柔軟で視野の広い考えを身につけることを期待しています。

令和8年度 理数「理数探究」シラバス

単位数	1 単位	学科・学年・学級	理数科・2 年次・H 組
教科書	理数探究基礎 (数研出版)	副教材等	なし

1 学習の到達目標

様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けるようにする。
- (2)多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。
- (3)様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	ガイダンス 研究計画の設定		<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標を明確に理解させる。 ・課題研究の計画を立案し、実験方法を理解させる。 	出席状況、学習に取り組む意欲・態度等の評価、発表の内容等の評価を総合的に判断し、学年末に評価する。
	5	課題研究講座(1) 課題研究講座(2) 課題研究講座(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・実験を通して、実験方法や技術を習得する。 ・科学的、数学的に考察し、処理する能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究講座では、実験をとおして、科学的に考察し、処理する能力を育成する。 	
	6	課題研究講座(4) 課題研究講座(5) 課題研究講座(6)		<ul style="list-style-type: none"> ※実験においては、安全を第一に実施するように配慮する。生徒には常に安全面での指導を徹底する。 ※仮説を立てて検証しながら研究を進める科学研究の方法を理解出来るようにする。 	
	7	課題研究講座(7) 課題研究講座(8) 課題研究講座(9)			
	9	課題研究講座(10) 課題研究講座(11) 中間報告	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集、実験の段取り(安全管理を含む)の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉大学高校生理科研究発表会中間報告に向けて準備を行う。 ・千葉大学高校生理科研究発表会 	
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	課題研究講座(12) 課題研究講座(13)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集、実験の段取り(安全管理を含む)の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究講座では、実験をとおして、科学的に考察し、処理する能力を育成する。 ※実験においては、安全を第一に実施するように配慮・指導する。 ※仮説を立てて検証しながら研究を進める科学研究の方法を理解出来るようにする。 	出席状況、学習に取り組む意欲・態度、レポート等提出物の評価、発表の内容等の評価を総合的に判断し、学年末に評価する。
	11	研究発表講座(1) 研究発表講座(2) 研究発表講座(3) 研究発表講座(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容を相手に伝える技術・表現する技術の修得 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を行い、自分の研究を相手に伝える能力を育成する。 	
	12	研究発表講座(5) 研究発表講座(6)			
	1	研究論文講座(1) 研究論文講座(2)		<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究をまとめ、論文を作成することで、科学論文のまとめ方を学習する。 ・研究論文を提出する。 	
	2	研究論文講座(3) 研究論文講座(4)		<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県高校生課題研究発表会に参加し、1年間の研究の成果をまとめ外部に発信する。 	
	3	研究論文講座(5)			

3 評価の観点

知識・技能	自然や科学技術に関して観察，実験などの探究的な活動を通じて習得した探究の方法を用いる。研究の実施や報告書の作成を通して，研究において独自性が重要であることに気付き，創造的な思考力を培おうとしている。
思考・判断・表現	仮説の設定，実験の計画，実験による検証，実験データの分析・解釈，推論など探究の方法にしたがって研究を進めている。
主体的に学習に取り組む態度	探究の方法を用いて研究を行う過程で，設定した課題を科学的に解決する方法を見いだす能力と態度を培おうとしている。

4 評価の方法

知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い，総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

この授業は広い視野に立った物事の理解と研究計画の伸長を目標としています。試験はありませんが，その分，課題(報告書作成・提出を含む)やプレゼンテーションに取り組む姿勢が重視されます。多様な対象への関心を高め，意欲的かつ積極的に取り組んでください。

*学習の計画及び評価方法等に変更が生じる場合は，口頭もしくは文書で案内します。

令和8年度 スーパーサイエンス「Crossover Science II」シラバス

単位数	1 単位	学科・学年・学級	理数科・2 年次・H 組
教科書	配布プリントによるテキスト	副教材等	なし

1 学習の到達目標

様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1 オリエンテーション			活動への取組み（姿勢・質問・ミーティングでの発表など）およびワークシート・レポート等の提出で、学年末にまとめて評価する。
	5	2 量子科学技術研究開発機構講座	<ul style="list-style-type: none"> ・拝聴する上での注意 ・質問のしかた 	物理・生物・化学分野の学習内容が、医学の領域でどの様に実践的に活用されているか確認させる。	
	6	3 アメリカの成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> ・SS-Field Studyに向けて ・現地での研修準備 	現地の自然（地形・地質・植生など）や歴史について、学習資料を基に事前学習すると共に、研修のポイントを計画化し、効率的かつ効果的な準備を進めさせる。	
	7	(1)地形と地質 (2)氷河 (3)植生 (4)歴史			
9	4 高校生理科研究発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究に向けてテーマ等を考える ・ポスター発表のしかた 	ポスターセッションにおけるポスター制作およびプレゼンテーションに重点を置く。		
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	5 SS-Field Study報告会準備	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを用いた発表準備 	科学技術研修の成果を、プレゼンテーションソフトを用いた発表に備え整理すると共に、班を構成し、効果的なプレゼンテーションの準備を進める。	活動への取組み（姿勢・質問・ミーティングでの発表など）およびワークシート・レポート等の提出で、学年末にまとめて評価する。
	11				
	12				
	1	6 SS-Field Study報告会	<ul style="list-style-type: none"> ・発表方法 	発表要旨の作成及びプレゼンテーション・質疑応答にも、班毎に挑戦させる。 →発表要旨、プレゼンテーション、質疑の様子を総合的に評価する。	
	2	7 まとめ		次年度のカリキュラムへの接続 ・キャリアが「タ」を通した、個々の生徒の志望進路実現とのクロスオーバー	
3					

3 評価の観点

知識・技能	科学的な事物・現象に関する観察，実験などを行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物，現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	科学的な事物・現象の中に問題を見だし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	科学的な事物・現象に関心や探究心を持ち，主体的に探究しようとするとともに，科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い，総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

野外実習を通して，直接自然から自分の五感を駆使して情報（データ）を収集し，その情報を整理し，既知の事象や法則に当てはめて解析・解釈することを目的とします。サイエンスの根幹である「類推力」を伸長すべく，意欲にもとづいて取り組んでください。事後にレポート作成がありますので，まとめまでしっかり行っておくとよいです。

*学習の計画及び評価方法等に変更が生じる場合は，口頭もしくは文書で案内します。

令和8年度 スーパーサイエンス「SS-Field Study」シラバス

単位数	1 単位	学科・学年・学級	理数科・2年次・H組
教科書	配布プリントによるテキスト	副教材等	なし

1 学習の到達目標

様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けるようにする。
- (2)多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。
- (3)様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1 ガイダンス	・野外実習の心得(安全確保)	※総合的な学習の時間(COSⅡ)と連携した指導を行う。	野外実習の取組み(調査に取り組む姿勢・質問・ミーティングでの発表など)およびワークシート・レポート等の提出で、学年末にまとめて評価する。
	5	2 事前学習 (1)国立公園の自然	氷河地形	<ul style="list-style-type: none"> ・国立公園の自然(地質・植生など)について理解させる。 ※ビデオ等を活用し、学習事前に必要な知識を持たせる。 ・草食動物の生態を理解させ、食物連鎖の中でのブラックベアやオオカミとの関わりや、米国の国立公園の管理のしかたを学ばせる。 ※ブラックベア等野生動物と地域住民の問題、日本と米国の公園管理の違いなどに目を向けさせ、生態系の保全について考えさせる。 	
	6		・野生動物 ブラックベア 鳥類		
	7		アライグマ リス類		
	8		・標高による植生の変化		
9					
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	3 現地研修・観察	・氷河地形 ・植生 ・シリコンバレーでの企業活動	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して調査・観察したことをもとに、宇宙開発や国立公園の大自然について理解を深めさせる。 ・調査・観察して気づいたこと、感じたことなどを記録させる。 	野外実習の取組み(調査に取り組む姿勢・質問・ミーティングでの発表など)およびワークシート・レポート等の提出で、学年末にまとめて評価する。
	11	4 事後学習 (1)現地研修のまとめ (2)レポート作成 (3)報告会準備 ①発表テーマ選定 ②発表内容の検討	・レポート作成 記録の解析 図版の適正利用 的確な考察	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で調査・観察したこと、それに対する考察を、レポートにまとめる。 ・科学技術研修の内容から生徒がテーマを見出し、自分の体験したことを発表することで、プレゼンテーションを行う能力を養う。 	
	12		・プレゼンテーションソフトの有効活用 ・オーラルプレゼンテーションの技術	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術研修の内容から生徒がテーマを見出し、自分の体験したことを発表することで、プレゼンテーションを行う能力を養う。 	
	1		(4)海外科学技術研修報告会	<ul style="list-style-type: none"> ・多人数の前で論理的に話すことの難しさ、他の人の発表を聴き、理解しようとするものの大切さを学ばせる。 	

3 評価の観点

知識・技能	科学的な事物・現象に関する観察，実験などを行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物，現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	科学的な事物・現象の中に問題を見だし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	科学的な事物・現象に関心や探究心をもち，主体的に探究しようとするとともに，科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い，総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

野外実習を通して，直接自然から自分の五感を駆使して情報(データ)を収集し，その情報を整理し，既知の事象や法則に当てはめて解析・解釈することを目的とします。サイエンスの根幹である「類推力」を伸長すべく，意欲にもとづいて取り組んでください。事後にレポート作成がありますので，まとめまでしっかり行っておくとよいです。

*学習の計画及び評価方法等に変更が生じる場合は，口頭もしくは文書で案内します。